大正九年十一月一日發行　大正九年十月二十六日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　十一月號

目次

七卷
一號

女子青年界目次

大正九年
十一月號

内科

淺見醫院

牛込區中町一

電、番町一三六

創立　大正七年三月十六日

理事長　醫學博士　木下正中

事業　姙婦産婦乳兒幼兒の保護

日本に於る最初の母體保護協會 賛育會に御入會下さい

維持　本會の事業費は主として同情者の會費によります、是非御入會の上御助け下さい。

會費
一、通常會員毎月五十錢　一時金百圓以上
二、特別會員毎月貳圓　同　三百圓以上
三、維持會員毎月五圓　同　一千圓以上

東京市本所區柳島梅森町五十五番地

入會申込所　振替東京三九〇〇〇賛育會本所産院内　電話本所六〇三〇　賛育會

内科
小兒科
皮膚科

女醫 吉見孝

診察時間　午後三時半より　同　九時迄

神田區三崎町三ノ一北横町

眼科院 古澤愛泉

▲麻布、鳥居坂下、電話芝五〇三六番
▲渡米者の検眼と治療
▲視器の検査と眼鏡の検定
▲心地良きスタイルの眼鏡作製

尚目の事に付て電話にてお尋ねあれば喜んで御答致します

横濱市山下町六十一番地

LACTOSTASE

整腸劑

ラクトスターゼ

▽粉末、錠劑の各種、
▽各地藥店にあり、
▽説明書贈呈す、

ラクトスターゼはメチニコッフ博士の長壽説に基きたる乳酸菌製劑にして、現今腸疾豫防、治療劑として盛に其應用を見る、之れ蓋し本劑は腸内腐敗を防止し、之に原因する諸症に有效なるの事實明確となれるによる。

ラクトスターゼ適應症　腸の疾患、腎及肝の諸症、腸内生産毒素の吸收に因する皮膚病、神經衰弱、貧血早老、動脈硬化、蛋白質含有品多食の要ある諸症等。

三共株式會社

本社　東京日本橋室町三丁目
出張所　大阪淡路町・臺北府後街

◆其實驗說明書の發行十三版を重ね◆

本器は曾主前島震太郎の創製にして江湖に提供して以來七箇年

酸素療器



登錄商標

オキシヘーラー

▽邦文 支那文 治病實驗例附說明書贈呈△

▼オキシヘーラーの効力顯著なる事は使用僅か五分間にして三乃至五m.mの血壓を亢め一時間を繼續せば實に十乃至三十m.mの活力を增進す試に血壓計、脈波計を以て驗せば其調節の狀を明にし各自は脈搏呼吸、體溫の整調に依て自覺せらる

▼靈妙なる磁氣應用の本器は斯して血液中の酸素吸引力を增大し健康の元素を補ふが故に難治の疾病を根治するに空前の偉力を有す論より證據使用者は忽ち脈搏强實となり全身の溫暖、呼吸の深長を感じ次で熟睡、解熱、鎮痛、食慾の亢進、兩便の快通等生理的本能を回復するの神速なるは實に天下の奇蹟なり

特色（使用法簡易効力永遠不滅にして電池の如く消耗するものにあらざれば器械購入以外永遠に何等費用を要せず

■正價金參拾五圓■

送料 內地金參拾六錢 支・朝・臺・樺金六拾五錢

愛用者實に數萬を算して信用愈〻確立決して他の模倣を許さず

東京市牛込區簞笥町三十一番地

◆オキシヘーラー奬勵會◆

電話番町局三〇七・四六八九・振替東京二七七一三

貴婦人紳士御愛用美髪料

ドクターペリース

ヘーアトニック

Dr. Perry's Hair Tonic

一瓶 壹圓

起床時ノ滴ハふけヲ去リ抜毛ヲ止メ不快ナルかゆみヲ治ス

東都唯一外人經營化粧料藥品店
コロンビヤ蓄音機レコード東京代理店

東京市京橋區銀座尾張町

ホスピタル、ファマシー

銀座藥品部

電話銀座一五三五番

The Hospital Pharmacy

女子青年會

徽章

一個 貳拾錢 送料貳錢

東京市牛込區市ヶ谷田町

販賣所 女子青年會本部

NAKAYAMA SHOTEN.

IVORY CARVER.

Manufacture of

Damascen Ware, Bamboo Sticks Wooden Works & Japanese Curios.

No. 27, Bentendori Nichome, Yokohama.

TEL. NO. (HONKYOKU) 597

横濱市辨天通二丁目
二十七番地

美術品並ニ雜貨直輸出
卸小賣商

中山商店

電話本局五百九十七番

女子青年界

第十七巻

第十一號

清教徒（ピューリタン）移住後三百年記念の爲め本號の前半を清教徒（ピューリタン）號とす。

清教徒とは誰ぞや

古田弟三郎

十九世紀の有名な歴史家グリーン氏は「希臘文藝の寳庫が開かれた事は、文藝復興を齎したが、より古きヘブライ文學の發覺は宗教改革を惹き起した。前者は有識者に對しての古典研究の隆興であつたが後者は一般人民に對しての新生活の創造であつた」と申された。此紙上に於て宗教改革と文藝復興との何れが先であつたかを議論しやうとするのではないが、尠くとも十六世紀の英國の狀態を想像すれば、宗教改革の方が文藝復興に比して遙かに、人間生活の内面に滲み込んで底力のある啓蒙作用をなした事は伺はれる。一卷の聖書が僧院の薄暗き倉庫から光明に持ち出されて、日常の言語に翻譯され、鍬とる百姓の耳に、編針を操る貧しき母や妻の耳朶に觸れてきた時に、此所に始めて吾等の中に生れ給ひし救主が當然の御座に即き給ふた様に思はれる。

チンダルとコバルテイルが必生の事業として仕上げた英約の聖書は正しく英國文學の基礎であり又英國語の統一の源であつた。聖保羅の會堂で日曜毎に集ふ幾千の人々に讀み聞かされたビショップボーナーの聖書（監督ボーナー氏、始めて聖書六卷を會堂に備ふ）さては朝夕家庭に於て自由に講話された聖書は、どのやうな結果を齎らせたか、文學上より言へば全英文字を一般の英國人に了解し得るものとなし、沙翁、ミルトン、デイケンス、サッカレー等隔世の作家の一言双語を互に聖書上の言葉に依つて英國人の用語と混用せしむる迄に至つた。併し此偉大なる文學上の貢獻も當時の人々の人格及び品性に與へた影響に比べる時は、本流に對する支流のやうなも

のではなからうか　嬰兒が母の聲を聞いて始めて乳を慕ふやうに、人は神の聲を直接きくやうになつて始めて古き僞りの衣を脫ぎ捨て、眞實なる姿をなさうとし始めた。一新された宗敎觀、道德觀はあらゆる階級の人々の深い內面生活に徐々に發芽して來たのであつた。田舍の一農夫が考へる問題は、大哲學者や神學者の考へる問題と同じになり、立派な會堂や監督や執事や長老達が敎會を作るのではなくて、世界が敎會で一人々々の個人が祭司となつてきた。

基督敎を人間の理性の及ばない特種の天啓の宗敎であるかの樣に見る時代は去つて、今は極めて自然に其敎理を說明し、降誕も十字架も救拯論も贖罪論も凡て至き眞理の默示として取扱ふ事となつた。基督敎は完全なる自然宗敎であると、多くの學者達が云つて居らるゝ。從つて聖書が神の默示と見做されると共に、世界の歷史が又神の不斷の默示と見做されてきた。さすれば十四世紀から十五世紀にかけてのヨーロッパに於る文藝復興も宗敎改革も、科學の著しき進歩も、新舊思想の衝突も、革明も何一つとして神の默示でないものはない。斯樣な歷史的な經路を經て、基督敎は漸次に其完全な姿を吾々の前に表はすのであらう。其故に可成に慘ましい十六世紀後半から十七世紀前半にかけての、英國の淸敎徒の有樣を髣髴する時に、單に興味があるといふよりは寧ろ敬虔な思ひで神の新しき啓示を目のあたり眺むる思がする。文藝復興と宗敎改革は前述の通り個人主義を英國に齎らせた。劃一的なカソリックの敎會制度と全然反對の立場をとるは明である。カソリックは既に一千年以上の基礎を持てるに反して、宗敎改革の產物たるプロテスタントは創業日尙淺く、假令其根柢が人間の必然性、自然性にあるとは云へ、一國の政治組織、社會制度に宗敎本來の理想を實現せんとすれば、世界的地盤と偉大なる歷史的經驗とを有するカソリック敎に對しては、玆に峻烈な宗鬪が挑まれなければならぬ。

新敎徒は人間の良心に訴へて、自ら其共鳴する

のを叫合せんが爲に、道德を以て至上の武器となし純潔なる生活を以て自ら他人を心服せしめ、强力なる意志を以てあらゆる迫害に堪へ、唯に新しき主義主張のみならず、生命を以て宗教を表現せんとする一派の人士を見るに至つた。嚴肅なる律法を以て凡の行爲を律せんとしたカルビン主義者は、確に此爭鬪的心理より生れ出でたる者と云つてもよからう。

十六七世紀の英國の歴史に一光彩を與へた淸敎徒も亦この系統に屬するものと云つて差支へなからう。ミルトンは淸敎徒の典型たりしは、萬人周知の事實である。道德を極點迄謳歌したコーマスといふ劇詩に「德を愛せよ、德のみ汝を自由ならしむ」といふ言葉がある。彼にとつては完全なる道德の實行それ自身が救であつた。又天路歴程の著者バンヤンの傳記を見るに、村の木陰に靑年男女の舞踊する事或は遊戲に己を忘るゝ事、諧謔冗談に時を移す事、之等は彼にとりて致命的な罪惡であつた。「汝罪を離れて天國に行くか、若くは罪と共に地獄に落つるか」との天來の聲をきいて、新生活の門を潜つた瞬間は彼が球戲に夢中であつた時の事である。謹嚴無口のクロムエルが過去を追想して惱んだといふ罪惡は果して何であつたらうか。靑年の活氣にはやつて行つた些細の綺語に過ぎなかつた。

要するに淸敎徒の生活は獨居すれば祈り、對座すれば聖言、聖徒の事を談じ、內外の誘惑に打勝つて心身共に神の臺前に一點の汚れなからむ事を望んでやまなかつたものである。異敎徒との談笑は彼等にとつては罪惡に外ならなかつた。

初代淸敎徒の生活は、禁欲のストイシズムに似たる一種の精神的貴族主義に外ならない。然し純潔は常に美であり力である。沈默なる彼等の生活風貌が最早傳道となり說敎となつて、其數は日一日と增加してきた。一五五八年より一六〇三年に至るエリザベス王朝時代は、其勢力殆ど相半するに至つた。エリザベス女王の父ヘンリー八世は舊敎を嫌つて、英國敎會を創設し、エリザベスの異母姉マリー女王、

た。次でエリザベス位に即くや、舊敎の採用はスペインの勢力を增長せしむる恐れあるの故を以て、之を爲さず、新敎の採用は國家の分裂を來す恐あり、此所に於て表面はプロテスタントを標榜して、內部の儀式は舊敎に眞似たる英蘭敎會を再設し、英國々王の敎會內に於る首權を認めしめ監督政治を敷いたカソリック敎徒は法王の首權を否認さるゝ點に於て絕對に之に同意せず、最後迄戰ひ遂には遠く大陸の舊敎國に安住の地を見出したが、新敎徒の一部はカソリックの壓迫より逃れたるを得としてエリザベスの英蘭敎會を認容したが、新敎徒中の一部即ち清敎徒の群は英蘭敎會中にカソリックの偶像崇拜と、監督政治の殘留せる事を觀破して、飽くまでも之に同意しなかつた。不同意は焚刑である。然し死すとも彼等は其信念を曲げる事は出來ないのである。ロバート、ブラウン、ヘンリーバロー、バレー等有爲の人物が陸續として主義の爲、信仰の爲に殉死した。

親に兄弟に姉妹に友人に別れて、信仰の自由と理想の天地を見出さん爲、自ら一團となつてドーバー海峽を渡り、和蘭のチルフトハーペンに、暫時の宿りを見出した。然し此所は彼等の永き平安の地ではなかつた。彼等には尚越ゆべき悲哀の谷と、なすべき使命があつたのである。一切を神に託して人生の大海に棹さねばならなくなつた。彼等にほの見ゆる新天地の創造の爲にである。」以下カーライルの一文を譯出して彼等の氣慨を紹介して置かう。

「清敎徒を非難する者あらば、夫は爲すが儘にして置かう。思ふに何人も彼等の企の無謀なる事には異論はない。然し乍ら、吾々は蹲つて其眞實なる態度を諒解せずには居られない。何となれば自然が是を認め、育て又育てんとして居るからである。吾々は屢々萬事は世界の爭鬪場裡に進捗するものであると云つた。深刻なる意味に於て力は、一切の價値の尺度である。一事物に時を興へよ。若し夫が成功すれば

そは將に正しき事である。扨アメリカサクソンドムに眼を放たれよ、二百年の昔和蘭のテルフトハーベンよりメーフラワーの航したといふ一小事實を觀られよ、若し吾々にギリシヤ人の如き詩想の靈を抱けるあらば、此處に一聯の詩を見出したであらう。自然の女神が全大陸に事實を以て誌した自然自身の歌である。

斯は將に米國の誕生であつた。勿論此時以前に多少の移住者を見ないではないが、其は肉體の材料とも稱すべき徒輩で、靈は此時始めて到達したのである。故國より追はれた貧窮の此等清教徒は、今は和蘭に住む由もなく、新天地を創設せんと決心した。未斧鉞の加はらない暗黑の森、猛獸の行きかふ荒野とは云へ、倘絞首臺の殘忍に勝つて居る。彼等は、勤勉は必ず食物を與ふる事を確信し、永遠の蒼穹は彼所にも彼等の頭上に廣がれる事を思つた。偶像を崇拜するに非ずして眞理と映ずる所に禮拜をなし、永遠の神への爲に有限なる世界に於て完全なる生活をなし、自由の月日を送らん事こそ彼等が必生の願望であつた。各自僅少なる所有を提供して、一艘の小船を購ひ、米大陸を指して舟出した。之がかのメーフラワーであつた。時に一六二〇年九月六日、今を去る三百年、我國に於ては德川秀忠の治世、元和六年である。（未完）

"Let not him that putteth
his hand to the plough
look backwards;
Though the ploughshare cut through
the flowers of life to its fountains,
Though it pass oêr the graves of the dead
and the hearts of the living
It is the will of the lord;
And His mercy endureth
for ever."
Longfellow.

受難者なる清教徒を思ふ

受難者たる清教徒を思ふ

山澤榮子

○

死なざる生活者は人類のいのち
信ずる意志の自由の爲に
彼等の深い忍苦の鬪ひ　それは
止むに止みえぬ人間性の求めよりの流出、
受難者の生活は不滅でした
彼等が苦惱の淚
改革の血は
尊貴なる無限の生命でありませんか
めざめたる改革者の步み――
地の上の人しれぬ悲哀の理解者
又受難者のみです。

○

彼等の在りし日はまことに遠く過去となりました
されどその存在から
淚ぐむまでに眞實な
感激がわいてきます
人間性にめざめし子は
痛苦の眞只中に追ひ求めます
たゞしんの人間でありたいのです
眞底からの人間味は彼等の
けなげにも强烈な要求の苦鬪となりました
世へ何の躊躇がいりませう。

ピルグリム・フアザース

猛獸の牙と蠻人の劍とが待つところへ、
住みなれた故鄕を永久にすてゝいくことを、
彼らは堪えがたいとはしなかつた。

彼らの堪えがたかつたのは、
うつろな儀文と形式とに、
靈交の自由を抑へられることであつた。

飢寒と缺乏とが待つところへ、
文明の生活をすてゝ行くことを、
彼らは恐ろしいとはしなかつた。

彼らの恐れたのは、
因習と傳統との、
眼に見えない鎖に縛られることであつた。

惡罵、嘲笑、斷交、投獄！
愛はせかれるほど強くなる、
迫害は信仰の火に油を注いだ。

かの大陸かの蒼穹、
かの高原、かの森林、
神の家、自由の地！

人は人を統治せず、
神は父、彼らは同胞、
愛による全き平等。

神の愛は天から叫び、
人の愛は地から應へたときの、
かの地の別名は敎會。

榮光と讃美、卿等のために、
とこしへに神にあれ。

食堂にキリストは立たれた。
けがれと惡とを除くために、
昔、繩の鞭をもつて、

黄金の偶像、階級、人種差別！
噫、幾たび、人の惡は繩の鞭を、
キリストの手に强いるのか！

神の榮光のあらはれる爲に、
淸敎徒の愛と信仰とのために、
彼らの子孫を、主よ、主に歸らせたまへ。

一九二〇・十月　森田松榮

嗚呼壯なるかな信仰の勇者！彼等に取つては信仰其ものが實に全生命であつた。今の世、事業の爲處世の爲に信仰の要を認むる者は必ずしも少なくない。されど信仰によれる理想を充實せんが爲め、寧ろ方便として事業を經營するものが果して幾何であるであらうか。我がピリグリム祖先等は能くも人生最高至聖の目的を自覺して、本末輕重の評價を敢てしたといふべきである。夫れ宗敎的理想充實の生涯は、人生須臾も忘るべからざる至高の生涯である。信仰は方便に非ずして其自身人の本性の流露ではないか。然り信仰とは人の全生命の別名である。之をしも他の爲にし敢て隷屬的地位に貶する現時の信徒は、宜しく祖先等の高潔なる思想の前に愧死すべきである。嗚呼今の世、全人全我を傾注して信仰の華を咲かす者何故斯稀なのであらうか

——海老澤氏著　ピルグリム祖先物語より——

プリマス情話

ロングフェロー

村岸榮子譯

激浪巖に碎けて將に雪花を散り敷く太西洋岸に、默々として船體を橫ふるメーフラワー號、それは翌日プリマスの港を發つて悲喜交々なるピリグリム便りを齎せ、懷しき母國英蘭土へと航行するのである今しもメーフラワーに託すべき書を認むるに餘念ない一青年があつた。彼はジョン・アルデンと呼びピルグリム一行中の最年少者でサクソン型の美青年であつた。進み行くペンの一行一行は、必ず始めかさなくば終りに花と歌はるゝ清教徒の少女プリシラをたゝへる名を記さずには濟まされなかつた。彼の胸はプリシラの名を幾度か呼びつゝペンの走りを鈍ふするのであつた。マイルス・スタンディシはアルデン青年の傍にあつて、シーザーの遠征物語に讀み耽つて居た。彼は背の低い然し肩幅廣く筋肉逞しい頑健な清教徒の隊長であつた。顏を見れば胡桃の如くに日に燒けて其皮膚は彈力性に富めど、口の邊りを覆ふ鬚は既に十一月頃の白雪を交へて居た。彼はふと眼を擧げて、窓越しに霧つぽい東風の吹き渡る森や林や牧場や丘や鋼青色の海面やを眺め渡した。午後の日蔭は無言で淋しげに又悲しげだつた。

「海邊の彼處の丘の上には路傍に咲いた薔薇の花、自分のためにたつた一輪咲いた愛のばらのロース・スタンディシが埋葬されて居る。彼女はメーフラワーで移り來れる群の中で一番先きに死んで行つた。自分等は印度人共から滅び行く人々の數を數へられぬ爲にと、彼女の墓所の上に麥を播いた。見よ、あの青々した麥畑の下に彼は眠つて居るのだ。」

彼はこんな事を思ひ見乍ら、恰度午後の天氣の樣に

續けて居る年若い友人に話しかけた。
「君がそれを終つたら少し話し度い事があるんだ。然し急ぐには及ばない。大して待遠くもないんだから。」アルデン青年は即座に書簡箋をたゝんで傍へをしやり作ら、恭々しい面色で隊長を見返つた。
「お話し下さい。何時なりと、私はスタンディシ殿に關する事なら伺へるのです」そして隊長は逡巡しながら訥り勝ちに云ひ初めた。
「男が獨身で居るのはよくないと聖書に書いてあるのを知つて居るだらう。儂は其通りだと何遍でも繰り返して言ひ度い。毎日毎時間儂はそれを考へ且つ感じ且口に出して言ふのだ。儂のロース・スタンディシが亡くなつてからといふもの、儂は全く物倦い悲慘な生活を續けて來た。その胸の痛みを癒すものは只友情あるのみだつた。さうした淋しみの中に儂は屢々處女プリシラの名を思ひ浮べた。彼女はほんのひとりぼつちだね。兩親も兄弟もみな一冬の中に

思へば、忽ちにして病床に侍する姿を屢々見かけな
いつも辛抱強く元氣でまめまめしい。で此地上に
も天使といふものがあるなら、儂は慥に二人の天使
を見知つて來た。そして一人が儂を捨てゝ行つた。
そのあとを埋めに入つて來たのがプリシラ天使なの
だ。儂の此感は實は疾うからであつたが、他の事に
かけてはかなりに大膽な儂も、今日迄まだ言ひ得ず
に居るのだ。それでお願ひとは、今からプリシラの許へ行つて、無骨な老隊長が、滑かな言葉には依らで行動そのものに依る軍人の赤心と赤手とを捧げる旨を傳へて貰ひ度いのだ。但し君は儂とは違つて學者であるから、もつと優美な婉曲な、戀人の愛を求めるにふさはしい言辭を用ひて吳れると信頼する。
　アルデン青年は隊長の告白を聞き終ると殊の他當惑し、驚愕し思ひ惑つた。強いて微笑を浮べやうとするさへ、大石を胸の上に推し据えられた樣な重苦しい感情の下には、苦しい努力であつた。けれども

恰も家の中の時計の針が、落雷の爲にはたと動きを止めると同じく、彼は胸のときめきをはたと止めてやつと言ひよろめいた。

「其やうな大事なお使者にといふなら、私は却て不首尾なお勤に終る事を恐れます。貴方はお一人で十分結構におやり遂げなさる、貴方の平常の標語を繰り返して、貴方は御自分でなさらねばなりません。決して他人にお任せなさるな。と申度いのです」

隊長は中々自分の申出を撤回し樣とはしなかつた猶も懇願しつゝ青年の手を採つて固く握り占め乍らかう言ひ加へた。

「儂はかなり事なげな調子で話しては居るが、性急な感情はなか／＼に深いのだ。君はまさか友情の名に依つて願ふ事を拒けはしないんだらうね？」

「友情の名は神聖です。その名の下に貴君がお願ひなさる事を、私は否む事は出來ないのです」

かくて友情は戀心を說き伏せた。アルデン青年は雄々しくも使者にたつたのである。友情は戀心を說き伏せて――彼は村里の裾から林を潜り森を拔けて進み行つた。梢高く囀り交す駒鳥や知更鳥が懸け渡した靑綠の巢、そこは平和に滿ちた自由と歡樂と愛との空中の都であつた。アルデン青年の身邊を取り圍むものは閑寂のみであつた。けれども青年の胸の中には、友情と爭鬪する愛心と利己と鬪ふ寬大との動搖擾亂があつた。

「遂に自分は喜びも希望も幻影も凡て捨てねばならないのか。私が無言裡に愛し崇拜し忍び待つて來た事は、只かうした結果の爲にであつたのか。私が氷の樣な海を越えて荒地の新英州迄わざ／＼從つて來たのは、只かうした結果を見る爲にであつたのか。これは確かに神の怒の手が私の上に加へられたのだ。あまりに心情の儘の慾望や考案といふ偶像に心醉し來つた罪の報ひなのである。されば之は我が擔はねばならぬ十字架である。」

斯してアルデン青年は小石を蹈みしめ／＼淺瀨を渉り、あたりに咲き亂るゝ山櫨の花を摘み取りつゝ

歩みを續けた。根は恰も森の中に踏み迷つた稚子が泣き疲れて葉かげに眠るが如き風情を見せて、甘い芳香は一面に漂つた。「清敎徒の花よ、清敎徒少女の典型よ、謙讓しく單純な可憐なプリシラ其儘よ」かう思つて彼はわかれの花束をプリマスの五月の花なるつゝましく單純な可憐なプリシラに捧げる事を思ひ立つた。やがて彼はプリマスの森を出て、目の前に大海の平面圖を見た。新に建つた人家を見た。牧場に働く人々を見た。戸口に近くよるにつれて、中から洩れ出るプリシラの歌聲がはつきり響いて來た。彼女は膝の邊り迄堆高く盛り上つた雪の樣に白い絲の中から、踏板をならし、絲車を廻しつゝ詩篇の歌を誦して居るのであつた。アルデン青年は眼の邊りに美しき意中の女の姿を見て、我が使命の嫌はしさを感ぜずには居られなかつたが、彼はその心を叱る樣にかく叫んだ。「犂に手をつけし者をして後を顧みる事なからしめよ。例へその犂が生命の花を根元より切りさるとも、例へ其が死者の墓と生ある者の胸とを轢し貫くとも、それは神の聖旨である主のめぐみは永遠に變らない」

　そこで彼はつか〳〵と戸口を入つた。プリシラは入口の階段に聞える足音をきくと、ぴたと歌を止めて起ち上り乍ら、喜んで彼の方に手をさし伸べた。「やつぱり貴下でしたのね。私、足音の聞えた其時からきつと貴下だと思つて居ましたの。だつて私、今も絲を採り乍ら歌ひ乍ら貴下の事を思つて居たんですもの」。

　アルデン青年は喜びの餘りに答ふべき言辭も見出ず、彼女の傍に默して立つた儘花束をさし出した。彼は過ぐる冬の日、初めての大雪のあとで降り積む深い雪を漕いで彼女を訪ねた其日、彼女が彼の頭上の白髮を笑つて拂ひ除けつゝ大吹雪の日にすら訪ね來つた青年の心を喜んで、暖い火の傍へ彼を坐らせた事を思ひ起した。あの時に自分の心を打明けて置いたなら！　然し今となつては既に遲かつた。黄金の時は過ぎて了つた。そこで彼は羞らひつゝ答ふる

代りに花束を出した。それから二人は坐に就いて美しい春の話や、小鳥や故郷の友の事、明日出帆するメーフラワーの物語り等を交した。彼女は頻りと母國の百花亂る丶庭園や雲雀や紅雀の歌に野原を懐しんで、今一度故郷へ戻り度いといふ事を語つた。アルデン青年はそれに答へた。

「あなたが其樣な心をお持ちになるのは無理ない、婦人の心よりずつと強い男子ですらも、恐しい冬には萎んだのです。あなたの心は柔和しく信頼にみちて居る。そして頼りとなるべきもつと強い心を要して居るのです。それで幸私は今あなたの許へ、善良な眞實な人、プリマスのマイルス・スタンディシ隊長からの求婚のお知らせを持つて來たのです」

彼は美しい修飾語を用ひず、子供の使の樣に短刀直入に要件を切り出した。プリシラは驚きと悲しみとに胸を撲たれて言葉もなく、アルデン青年の顏に見入つた。やがて彼女は不吉な沈默を破つて言つた

「もし本當にプリマスの偉大な隊長樣が、私を娶るといふのにそれ程御熱心で被入るなら、何故隊長樣は御自分で被入つて私を説き落す御面倒をなさらないのでせう。私を説き落す丈の價値がないものなら私は勝得物になる價値はないのですわ」

アルデン青年は彼女の氣を惡くしたらしい口吻をきいて、一心に隊長の爲に辯明し乍ら、斯る事に隊長自らが出馬し兼ねる位に多忙である事等をのべて却て形勢を不穩にして了つた。

「こんな樣な事に費す時間がないのですつて？まだ結婚もしないうちにない程なら、では結婚して後に探すとでもいふのですか、作るとでもいふのですか男の方つて皆さうしたものです。貴下方は私達女を理解なさらない、理解なさり得ないのですわ。貴下方は是からあれへと次々に勝手にお選びになつたり捨て丶見たり他のものと比較して御覧になつたりした揚句、突然にその御懇望をお申込みなさつたりして、しかも期待して被入つた樣な御滿足なお返事をしないからつて氣を惡くなさるなんぞといふ事は、

決して正當ではありませんわ　女の愛情といふものの
は決して懇望されるべきものではありません。えゝ
さうです。こちらから懇望をするのです。誰でも愛
して居るない、それをいふ許りでなく、眞にそれを
示すのですわ。ですから此隊長樣であつたにせよ、
いくら老人で無骨であつても、今少し辛抱強くして
本當の愛の心を見せて下すつたら、私はお從ひ申し
たかもしれませんけれど、もう駄目でございますわ」
　アルデン青年はプリシラの言葉には關はずに、猶
もスタンディシ隊長の武勇を賞め德を頌へ、親切な
女の樣な心を持つて居る事、たとへ身長が矮小であ
つても誰もそれを嘲笑せぬ事、プリマスにある婦人
は等しくマイルス・スタンディシ夫人と呼ばるゝを
以て最上の幸福と誇となして居る事、こういふ事を
單純な能辯に委して說き立てた。けれども處女プリ
シラは自己を忘れてその愛敵の爲に賞贊の辭を惜し
まぬ青年を見擧げ乍ら、おかしくて堪らぬ樣な笑み
を眼もとに浮べて、人惡相に微笑した。

―ジョンさん　貴下なぜ御自分の爲には何有らない
の？」　アルデン青年は當惑し、困亂して狂人の樣
に戸外に走り出で、只一人になつて海邊の砂原を往
きつ戻りつした。冷たい東風は熱した額と胸の熱と
には心地よかつた。光燦爛たる中に夕陽が沒して、
漸く暮れ始めた大海は、丁度目醒めた良心のそれの
樣に、改悔した身體を岸邊に激しく打ち附ては哭
の曲を高く奏でた。青年の胸の中では勝利を得た愛
が冠を戴き、友情は深傷を負ふて血を流して居た燃
ゆる情感は激しく絶叫し、つきまとふ義務の聲は靜
かに訴へる。彼はダビデの罪過を思つた。バテシバの
美しい顏と、戰陣に立つ彼の友人とを思つた。かくて
慚愧と自責の聲に苛まれて、彼は深刻な呻き聲を擧
げた。「こは神の聖旨に適はず、サタンの誘惑である」
と。彼は彼方の沖合に淤才するメーフラワーの船體
を認めると、それに搭乘して永久にプリマスの地を
去らうと決心した。そして直ちに踵を返して渚を後
に、薄暮の光を辿つて隊長の家へ歸り着いた。

女子青年會の參與せる建設的奉仕

河井道子

□白國に於ける米青年會の活動

大西洋を横切つて白耳義國アントワープ市に到着したのは五月十八日である。同市が戰爭當時獨軍に占領された報知を東京で受けた時の感情を偲び、一種の好奇心で上陸を期待した。船はシエルド河を溯る事數時間、靑々とした繪の如き牧場や整列した並樹、赤瓦の農家を包圍する菜種畑を兩岸に控へて、午後四時頃市の中央部とも思しき場所に横着になつた。近邊の家々から白ハンカチーフが歡迎の意を示すも嬉しい。直に女子青年會の幹事に迎へられて、米軍人家族や友人等のため戰時中に開始されたホステスハウスに伴はれたが、其途中市街の盛況、道路の整理を見て戰爭は百年以前ではないかとの氣がした。尤も市の二三ヶ所は飛行機の來襲を受けた跡がありはするが、通り一遍の旅行者には別段驚く程のものでもない。米國女子青年會は同市にも又ブラッセル市にも女子クラブとでも云ふものをフアエー(Foyer)と呼んで、諸階級の青年女子の修養所休憩所に當てゐる。是は佛國に於ても同樣である。何故基督教女子青年會と云ふ堂々たる名稱を用ゐぬかと云ふと、此等の國々では、基督教とは殆舊教を意味し、YWCAの仕事をすることが六ケ敷い。即ち舊敎の敎官、僧侶等の干渉が起るし、少數の新教徒と多數の舊教徒と増加しつゝある自由教徒との何れのものも基督教を標榜する組織をば嫌疑視して近づかぬ傾向があるので、フアエーと稱してゐる。フアエ

ーとは爐邊の意義で親睦の場所を代表し歐洲一般學生クラブ等にも此名稱が使用されてゐる。

白耳義の都府ブラッセルには十八日の夕方自動車でアントワープ市から馳せつけた。其途筋の曠原に紅さす空の夕景はフランダル畫家の好材料を偲ばせた。僅に二日の滯在中、米國女子青年會の幹事方の好意で充分に見物が出來た。其見物も名所古跡ではなく女子の働、學生の集會等で得る所が多い。ミスリクレーと女子大學の上代たの子姉が學ばれた米國のカレヂの教授、ミスセプレーとで女子學院の谷岡貞子姉の先生であつたと云はるゝ方々が、米國から派遣されてブラッセルに青年會の基礎を置く爲に大活動中である。其他數人の幹事等はそれ〲の部を分擔して、近き將來白耳義に於ては有力なYWCAが出來る兆が表はれて居る。

彼等の手で簡易食堂も二ケ所に出來て居るが、實に大繁昌で中々席を得る事が出來ない。之等の働には白耳義の若き女子が無報酬で大喜で奉仕してゐる

市の端の勞働者に便宜な所にも一軒フアエーがあ
商店や工場の女子が食事にも體操にも休憩にも出來
する。彼等が體操を樂む樣子が今も愉快に思ひ出される。夜七時過ぎに集まつた二三十人の女工が得意で體操を見せてくれたが、彼等は皆十三四歲の少女なので、夜分かくおそくの外出は如何と問ふた處、彼等は皆十六歲から十八歲迄の者であるとの返事で驚いた。其理由は彼等の生長盛り即ち十歲頃から大戰爭が始まり五ケ年間食料不足で通した結果、かく妙齡の女子が小兒の姿であるとの事をきゝ、今更の樣に戰爭と食料との密接な關係を敎へられた。一體どうして白國に青年會の創設を見たかといふと、それにはなか〲興味深い話がある。

戰爭中白國の地位ある一婦人が獨軍の捕虜となつて獨逸に送られた。彼女の親友の一伯爵夫人は彼女の子女を世話してゐたが、暫らくすると彼は放免せられ瑞西に滯在の許可を得たので、伯爵夫人は女中といふ名義で子女を伴ひ母親に渡しての歸途佛國に

立寄り、軍需品製造の女工の狀態を視察した。すると女工の慰安や休憩の爲一心に奉仕して居る一團體があつて、それは米國女子靑年會の人達であつた事を知つたのである。其働き振りに感心して、一二ケ月を幹事達と共に送り、其組織や精神に親しむに至つた。其所で彼女は是非とも同樣の働を自國にも起し度いから、二三年間力を借して貰ひ度いと、米國女子靑年會に申出たのが、そもく\の始である。此伯爵令孃は三十歲前後の立派な婦人であるが、自身仕事着をつけて食堂や事務所に働いて居られる。多分彼女程樂しい人は白國中に少數であらう。

　五月二十二日ブラッセルを發して巴里に向つた。其途中汽車は戰爭區域を通過したので、車中にありながら戰跡を導ねる事が出來た。砲擊された市邑、破壞された製造所、亂切された並木や果樹、累々たる推石に名のみを止むる村落、十字形木標の整立せる戰死者の墓地、一方に斯ういふものを眺めながらも、他方には靑々とした麥畠が赤い芥子と濃い空色の矢車草に彩られたのや、砲火で燒死した大木の根元から新芽の萌出て居る樣、恐しい塹壕の遺骸を優しい蔦が取巻いて居る風情等を眺める事が出來た時春の恩惠を思はずには居れなかつた。

　さて巴里には今回が三回目であるので別に物新しい感のしないのは殘念である。以前よりは人氣が荒くなつて居るのと、戰爭後享樂主義が一層強くなつたのではないかと思はれる事とが私の外面的概念とも云へる。然し眞面目な婦人達に談話すると疲勞と悲觀とが、彼等を壓倒して居る事は爭はれない。改造々々と無造作にいふが歐洲に於る各方面の改造は其責任の一部をでも感ずるものには由々しき大事で笑つて通る譯には行かない。さうかと云ふて澁面作つてゐたのでは尙更無效である。やはり內的生命の復活を基礎として、各自の立場で改造新設に盡さればならぬ場合である。

　米國女子靑年會は、戰爭當時佛國工業界の婦人間によき働をなしたが、今日も尙佛國婦人等が萬事を

引繼ぐ事の出來る迄、二三ケ年同國諸市に女子靑年會の根柢を据えつゝある。巴里に六ケ所、其他絹織物の本場リオン市、南部のマルセユ港から北部のリル等に數十人の米國幹事が働いて、佛國婦人を養成中である。かく云へば佛國には自發的の女子靑年會はないのかとの質問が出るに相違ない。其は確にある。會員數萬を下らないが、之等は皆新敎に屬する婦人會か少女會の如きもので、聖書を讀み祈禱會を開くに力を注ぐが、社會的に働き多くの勞働女子の慰籍敎化に貢獻することがない。從つて少數の信者間のものとなつてゐるが、其では戰後の今日發展の見込もなく、信者が奉仕の實を擧る事もないので、一方には以前よりあるものを一層信仰的に廣く深く導き、他方には寄宿舍、簡易食堂、職業案內、衞生社交の便宜を與へて女子に協力進步の道を開かんとして居る有樣である。米國では戰爭より起りし救濟や慰籍の道に使用すべき資金がかなりあるので、其を利用してかく佛國や白耳義を補助し、二三年後には全く手をひき、獨立的に經營の出來るやうな方針である。

米國の女子靑年會がいろ〳〵新しい事を紹介するので、最初は佛國の委員が其は不適當だと云ふて賛成を控へる事でも、マー一度試みてから適不適を定め度いとて、やり出した事が一々成功して居るのは面白い現象である。何と云ふても米人には若々しい氣性が潑溂としてゐる、之が彼等の長所とも亦短所ともなる。一例せば、商店の竝列して居る中心にスアエーを設けたので簡易食堂を開始せんと米人等が云ひ出したが、佛人委員はそれは駄目である。佛女子は其樣な場所で飮食をしないからと力說した。然し試みるに惡い事はなからうとて、米幹事等がやり出した所、それが大成功で今日では、晝のみでも七百人以上の商店や事務所に通勤の女子が來る次第である。食物が廉價で淸潔で滋養分に富み、不行儀な男子等が居らぬ點から益々繁昌を來し、最早室が狹過ぎるとの事である。其上によい事は從來之等の婦

人は葡萄酒を飲む事に金をつかひ、食物には儉約をしたが、青年會の食堂に來るやうになつてから其反對に酒には金が使はれぬので滋養物を攝取する事が多くなり從つて健康を增して來たとの報知である。今一例を擧げると、今迄舊新教徒は決して一所に宗教上の席には出席せぬ習慣にも係らず、女子青年會を通じて兩徒の女子青年が一所に出席するやうになつた事である。之から歐洲の女子青年會は廣く社會に奉仕の道を開拓するであらう。

白佛の外にルマニアにもチエコスロバキアにもトルコにもポーランドにも英米の女子青年會から多くの幹事が派遣されて、基礎的の事業に多忙である。

佛國は戰爭前には約三千八百萬の人口があつたが其中僅に五十萬人が新教徒で他は大概舊教徒と云ふてもよいのである。尤も名のみの舊教徒も多數あらうが、熱心な忠實な者は五百萬を下らぬとの事であるから、何としても彼等の優勢であるのは自然で、新教徒の事業の振はぬは當然であらう。佛國の舊教徒は全世界の舊教徒が傳道に獻金する總數以上に傳道に寄附するとの事を教へられ成程と首肯された。

有名なソボン大學は十二世紀に創立されたそうであるが、其附近に學生の下宿屋だとか、寄宿舍が多い。矢張り青年會の發起で女學生の爲の家が二軒と學生キリスト教同盟會のクラブが一軒あつて、食事にもゆき、集會にも出たが、女學生（大學生）は大層理窟ぽくて哲學的な六ケ敷い理論などには興味を有つて居るが、實際とか實行とかは彼等の關する所ではないといふ風が、英米の學生と異る點であらうと思ふ。彼等の中には新教にも舊教にも熱心でないものが多數であるから、傳道の必要が迫つて居ると同時に、いかにして彼等に基督教を紹介してよいかといふ事は指導者の苦しい點である。幸にも學生基督教同盟會は男女學生間に漸次重んぜらるゝやうになり、學生間の幹事に適任者があるから自發的に進步する前兆がみえてゐるのは喜ぶべきである。

市都の青年會は學生部と何の關係もない。即ち歐

ば男女とも市部の意味で、學生の仕事は何もして居らず、學生同盟會が學生の仕事を全部管轄して居る。

一日巴里の女子青年會の有志者等が市外の某家の庭園で總會を開いたのに案内された。此集會は巴里内外の新敎々會の女子青年達の集合と見る事の出來る會であつた。各自紙に包んだ粗末な辨當を携へ半時間許り汽車にのり、それから一時間も步行してバラの咲き亂るゝ美しき、庭園につき牧師の奬勵と祈禱會とで午前は終り、晝食を芝生の上で共にすませ、午後から一ケ年間の報告、會費の規定、奬勵、講話等があり有益な會合であつた。參考に記しておくが彼等會員は會費の半分は自分等の會の爲、半分は自國本部と萬國本部とに拂ふ規定である。ともかく支部と本部との密接な關係を表して居るのは美しい。

以下次號

サンデースクールタイムス主筆　トラムバル氏說敎の一節

私は一本の鉛筆を持つて居る。之は私の所有物であるが、私自身の一部分ではない。然し指は私の一部分である。決して落ちる心配はない。信者の生活も之と同樣基督の體の一部分となる事である。斯くして新生を得る。其結果として吾々の生活が第一連續せる靈交の生活となる。神我と共にありとの明なる意識を有つに至る。第二罪に對して勝利を得る新しき力を與へらるる。努力でなく信仰に依て與へらるゝのである。第三奉仕に於て新しき力を見出す。無理のない奉仕をなし得るに至る。第四聖書が新しき書物となる。之はレコードの同じ聲をきく蓄音機ではなくして耳をつけさへすれば生きた聲をきゝ得る電話である。第五吾々の生活が祈禱の生活となる。斯る生活になつて見れば論より證據吾々の日常生活それ自身がエスの敎への生ける宗敎なる事をあらはすに至るは當然である。

制慾に就て

ギヨン夫人

「わが欲する所の善は之を爲さず、反つて欲せぬ所の惡はこれを爲すなり。………………噫われ惱める人なるかな、この死の體より我を救はんものは誰ぞ」何といふ悲痛な叫びであらう！ パウロ程の深刻な經驗はなくとも、おほよそ「天の父の完全がごとく」を目標として信仰に生きやうとした者で、この沈痛な絶叫に共鳴する經驗を嘗て一度も有たなかつたものが、一人でもあるであらうか？ 絶食、水垢離、峻嚴な規則、難業、苦業、修道院、寺、尼寺等に於ては云はずもかな、個人の日々の生活に、どれほど多くの形式で、方法で、或は嚴しい、或は幾分手やはらかい、制慾の手段が昔から今迄行はれて來たことよ。

「この死の體より我を救はんものは誰ぞ」と悶え苦しんだパウロは、「我らの主イエス・キリストによりて感謝す。」と、うらゝかな勝利のよろこびに溢れた。げにや、パウロを救つたものは、博く深い學問でも、峻嚴な禁欲生活でもなかつたのである。それにも拘らず、淺かれ深かれ、パウロと等しく噫われ惱める人なるかなと悶え嘆いてゐる人々で、今はほ、規律づくめの生活を以て、肉を虐げることを以て、自己を救ふ唯一の方法と信じてゐるものが少なくない。これに就て我々はマダム・ギヨンから教へらるる所が多い。左の一篇はギヨンの「制慾に就て」の譯であるが、ひとり消極的の制慾のみならず、積極

的の修養法としても活ける神の存在の體驗は最も大切なことゝ思はれる。（M・M）

× × × × × ×

他の如何なる方法によるも、官能と情慾とを制し切ることは殆不可能だ。私は斷言したい。

理由は明白である。精神は官能を元氣づけ力づけ官能は情慾を動かし促がす。死體には官能も情慾もない。それは死體と精神とは關係がなくなつてしまつてゐるからだ。

外部を訂さうとばかりする一切の努力は、反つて精神を、それが躍起となつてきめつけてゐる外部の方へ押し進めるものである。精神の力は外部のものに費消されて了ふ、なぜなら、精神の力を峻嚴苛酷な外的行爲に使ふ時は、反つてそれが征服しやうとめがけてゐる官能そのものを勇氣づけるからである實に精神が官能に向つて働くことによつてのみ、官能は力を得るのである。官能の生命と活動との度は精神が官能に與へる注意の度に比例する。そして官能のこの生命は情慾を壓迫し制御する代りに、それを發動させ起首させるのである。峻嚴苛酷な行爲は肉體を弱めるには弱めるが、前に述べた理由から官能の鋭敏さを除くことも、その活動を減少することも決して出來ないのである。

この目的を達する唯一つの方法は、内的省察である。これによつて精神は生ける神をやどす爲に全然内にむけられる。もし精神が全力をこれに向つてそゝぐならば、この單純な行爲は、精神を官能から離らせ退かせるに至る。精神力を委く内へむけて活動させる時は、官能は弱められ、無力となる。精神が神に近くなればなるほど、官能からは益々離れていき、情慾が官能に左右されることも少くなる。

それ故、神の恩寵に心を牽かれることが非常に强いものは、外なる人が弱く力なく、息も絶え〴〵にすらなるのを見る。私はかういつたからと云つて制慾法を駄目といふのではない。その人の氣力や狀態

に從つて、或は服從し得る限りに於て、それは祈禱に伴ふべきものと思ふ。然し苛酷な制慾法は我々の重な修業となるべきではない。又は我々はこれこれの峻嚴な勸行を爲すべしと自らに命ずべきでもないたゞ單純にひとへに、恩寵が衷なる人を牽くまゝに從ふべきである。かくして（特に苛酷な制慾を念頭におかずして）生ける神の偕在に心を專らにする時は、神はあらゆる制慾を我々に遂行するを得させ、神に身を委せて忠信なる者に、少しの澁滯も與へないで、抑制さるべく殘つてゐるものをば、悉く神が彼等のうちに抑制し給ふのである。

そこで、我々は唯神にのみひたすら心を注ぐことをしつかり續けなくてはならない。さうすれば一切が正しく成し遂げられるのである。誰でもみんなが外部の苛酷を制慾行爲をなし得るわけにはいかないが、これは誰でもみんな出來る。忙がしい想像力に絕えず新らしい對象を供給するところの眼や耳を抑制するときには、放埒に陷る危險は少ない。神はこれをも我々に教へて下さる。我々はたゞ神の靈の導くまゝに從つて行けばいゝのだ。

かうすることによつて精神は二重の益を得る、即ち外的の事物から退いて、神に近くなり、神に近づくことによつて。力と德とを維持し保存する秘訣を受ける許りでなく、ますく罪から遠ざかり、いよいよ神に近くなつていく。かういふ風にして、心が神のものとなることが常習的になるのである。

「おほよそ主にをるものは罪を犯さず」 ヨハネ第一書 三〇六

聖フランシスと聖クララ（完）

夫キリストに屬する者は肉と其情及び慾とを十字架につけたり。若し我等靈に由て生なば又靈に由て行むべし。互に怒り互に妬むことをなして虛榮を求る勿れ。

聖フランシスと聖クララ（完）

小出正吾

翔りゆく靈ひ

クララの生涯に一つの大いなる悲しみが來た。それはフランシスの死であつた。

フランシスは溫きクララの家、聖ダミアノの寺院を去ると彼女の作つてくれた履に病後の足を運んでリエティに迄來た。其所には聖者の爲に靜かな憩ひの床が待つて居た。醫師は眞實をフランシスに告げた。「私は思ふにあなたは九月の末或は十月の始めまで生きられます」フランシスは暫くの沈默の後、兩手を擧げて叫んだ。

「さらば歡び迎えん、姉妹なる死よ」聖者は今や死を見つめ再び靈の泉は大いなる「太陽の歌」に對つて最後の一節を灑ぎ出したのである。

おんみは讃美せられん、我主よ、姉妹なる肉體の死のために　云々

この時からフランシスはフラテ・アンジエロとフラテ・レオを常に枕邊に在らしめて「姉妹なる死」の歌をうたはせたのであつた。彼の死の床より聖フランシスは恩寵に奇すしきその生涯を見渡し、限りなき人生と自然の愛を抱いて天國の曙を望むのであつた。此等の深刻なる日々の間にクララは屢々使者を遣はしてフランシスが其病床を彼女の尼院に移さんことを請ふた――さらば彼女は彼に告別をな

し得やう。けれどもそれは最早遲かつた。「姉妹クララに言へ」フランシスは手紙を携へて行くべき兄弟に對つて言つた「私は彼女がもしも神の子の又は私の命令に背いたことがあつたとしても、その一切を消滅せしめる。そして彼女は今すべての憂ひと惱みを棄てなければならない。何故ならば今彼女は私に逢ふことは能きない。されど彼女の死ぬ前に彼女と姉妹たちは私を見ることを得、そしてそれによつて大なる慰めを得るであらう」まことに彼のこの言葉は彼の死後事實となつて充たされた。重病のフランシスは輿に擔はれてリエティの僧上の家を出た。路半ばにして病める聖者は輿を下ろさせた。そして「私の頭をアッシジの方に向かせて貰ひたい」と彼は曰つた。山ふところに横はるアッシジの家々の壁サンタ・ルフィーやサンタ・マリア・デルラ・ミネルヴ。市を見下すサッソ・ロッソの絶壁。逢かにモンテ・スバシオの麓にかくれてゐるクララの家聖ダミアノ。その目の下には彼の青春の頃勇圖を抱いて馬を歩ませたウンブリアの平野があつた。半ば盲目となつたフランシスは永い間それらの全てを見つめてゐた。やがて彼は靜かに手をあげてアッシジの上に十字をかいた。「主によりて汝に祝福あれ」彼が生れ、彼が主によつて選ばれたこの里へ死ぬ爲めに彼は歸つて來た。ポルチウクウンラには小い庵が彼の昇天の床を備へて彼を迎へた。

「おんみは讃美せられむ、わが主よ、姉妹なる死の爲めに」病める聖者はいくたびか歌つて止まなかつた。彼は再び守人に願つて地の上に裸かで横はつて息を引きとることを許された。一二二六年十月三日の土曜日が來た。彼は兄弟たちに彼の身體の上に灰を撒く事を願つた。「まもなく私は塵と灰にほかならぬであらう……」ウンブリアの野に靜かな夕暮がせまつた。フランシスは常ならぬ力強さをもつて歌ひはじめた。それはもう「姉妹なる死の歌」ではなかつた。其はダビデの第百四十二の歌であつた。黄昏罩めたポルチウンクウラの森のなかなる小屋に

フランシスは深い靜かな祈りを彼の一生の伴侶、兄弟達のあひだでとなへ初めた。

平野を拔んでゐる時、落日に映えるサン・ダミアノの丘の方へ向つて聖歌の合唱

フランシスは深い靜かな祈りを彼の一生の伴侶、兄弟達のあひだでとなへ初めた。

わが聲は主を呼びわが聲は主に乞ひもとむ……………願はくはわが靈ひを獄屋より出し、われに聖名を感謝せしめ給へ。なんぢゆたかにわれをあしらひ給ふとき義しき人達われを待ちてあらむ。

彼の聲が歇した時、すべては死の如き靜寂にかへつた。そしてアッシジのフランシスの唇はとこしへに閉ざされた。―彼は歌ひつゝ故郷へ歸つて行つた。この時この偉大なる神の歌人への最後の挨拶として家の上なる空にあたつて妙えなる囀りが聞えた。それは聖フランシスの地上の友達なる雲雀達が、恰も今し翔りゆく小も貧き人の靈魂に對つて悲しい晩歌を告げに來たのであつた。（フランシスと雲雀の交りについては「完全の鏡」百十三節を見て欲しい。この愛らしく謠り又よく歌ふ鳥を聖者が如何に愛したかを知ることは我等の心をとましめる。）

柩の來訪

十月の朝霧が紫のヴェールをもつてウンブリアの平野を被んでゐる時、朝日に映えるサン・ダミアノの丘の方へ向つて聖歌の合唱と喇叭の吹奏に揺られつゝ、靜かに歩む行列があつた。それは橄欖の枝と焰えた蠟燭とを手に手に有つて聖フランシスの聖き柩を迎へに行つたアッシジの市民が禮を重んじて態々この尼院に寄り途をしたのであつた。嚴肅な葬列は會堂の内に引き入れられ、そして姉妹等の格子の窓べの近くを過ぎた時に、格子の除かれた窓邊によつて聖クララ及び他の姉妹達は生前の約束通りもう一度彼女を訪れ來し父フランシスをば見納めることが出來た。兄弟達はその窓の外にてこの聖き骸を柩より扛ぎ腕を擧げてこれを支へ姉妹達の窓邊に示した。「而して貴女クララ及姉妹達が慰められるために欲する限りかくなしぬ。されど彼女等はかゝる父の慰藉と訓へを奪はれしを見て、深き悲しみと涙にみちぬれぬ」と完全の鏡は曰ふ（その第百八節）小さな食堂は今や悲しみと別離の嗚咽に充された。

「誰が涙ぐまずにゐられやう」チエラノのトマツは記す、「平和の天使達でさへかく迄に痛ましくなくときに……………」

クララの生活

フランシスに引換へてクララは六十年もこの地上に生活した。そして彼女の修道院生活は四十一年間であつた。勞働に善き模範を示したのみならず、クララは信仰生活に善例を示した。彼女はフランシス回心の記念なる十字架像の前に不滅の燈火を抱いて主の苦しみに心を合はせ幾夜を明かした。それにも係らず朝は姉妹達を起し、燈火を點けミサのための鐘を鳴らすのであつた。クララの豐かな肉體はサンダミアノ尼院生活の始めには唯一束ねの葡萄蔓をもつて造られた床と一片の木片なる枕をもつて眠るのであつた。後にクララは革の上に落つかぬ枕をして臥つた。そして最後にフランシスの嚴命によつて一つの藁を入れた嚢の上に睡るのであつた。彼女は又暫くの間豚の裘の痛い毛を内側にして着てゐた。その着物は其後毛織の贖罪者の帶に換えた。クララが會堂から歸つて來ると彼女の顏は輝いて居り彼女の言葉はたのしさに滿ちて居た。

こんな事もある。或時クララは深く深く基督の血に象つた聖水の意義を覺つた。そして彼女はそれを終日姉妹達の頭の上に漏たらしてやり、基督の傷から流れ出でた救ひの河をいつまでも忘れてならぬ事を繰り返し繰り返し說くのであつた。

聖フランシスの前に慰撫と勵ましを必要とする女らしい弱いクララは、實は自分の責任に對しては驚く可き强者であつた。彼女は神の前に眞實そのものであつた如く、人の前にも强い女性としてその信念を汚されなかつた。戰士の貴族に血を承けたこの處女は神の靈に充されることによつて、謙れるフランシスの草として萠え出で屈從と虛僞のあらゆる生活を見事に打破して本當に解放された女性として、自分の道を生きたのである。

チェラノの山城ら山麓の樣にスポレトの谷へ瀉下りてサン・ダミアノをも攻撃したサラセン人の前に

鋭のても雄々しく携せぬクララの氣象は、聖父フランシスの理想を能く守護し

チェラノの山から山蜂の様にスポレトの谷へ飛下りてサン・ダミアノをも攻撃したサラセン人の前に扉を背にして自ら立ち、祈りをもつて彼女の愛する姉妹達の群を死と凌辱とから護つたのもクララであつた。又モロッコに於てフランシスカンの最初の殉教者の死が遂げられた時、異郷の地に出で、殉教の苦しみをうけん事を願つたのも彼女であつた。それよりも最も大きなクララの仕事は、彼女がフランシスの「貧困の人」の生活を保護し終つたといふ事である。彼女は女性フランシスカンの生活をして完全に赤貧であらしめることとの特權に就て、法王の允許を乞ふた。併し法王は女性等の少弱さの故に其を拒け、適當の財源を所有せしめんと努力した。クララの抗爭は永く續いた。彼女の親しきウゴリノが法位に就いて、グレゴリオ九世となつた後、彼も好意よりして無理にも修道尼院に財産を與へ、彼女等をして他の尼達と異ることなく平和と靜寂の院裡に棲む事の出來得るやうに祈つた。それらの美しき誘惑に對つても雄々しく撓まぬクララの氣象は、唯父フランシスの理想を確ぐ守護して敗るべくもなかつた。遂に親しき法王は曰つた。「もしも汝が自分の誓ひの爲に其を完ふしやうと言ふならば、私は其誓を解き放ち得る權を有つてゐる」。「聖き父よ」クララはよくも答へた「私を解き放つならば罪から解放して下さいませ。けれども主イエスキリストに從ふ事からは解放して下さいますな」彼女及彼女の姉妹が永久に貧しくてある權利の不朽な承認は、やがてインノケント四世によつて、クララの手に渡された。それはクララ——實にフランシスの眞實の後繼者——が此世を去る日の二日前であつた。

　フランシスの逝きし後、年々は過ぎた。クララは姉妹の群を牧つてダミアノに存へた。それらの日の間に、フランシスの近き兄弟レオやアンヂュロやジネプロが屢々クララを訪れた。彼等と共にあつて彼女は彼等の師が未だ地上にありし日の思出のなかに

沈むのであつた。フラテエヂテイヲも時々クララを訪れた。この兄弟は常に、彼の僧房のなかにじつとして少女が自分の室に坐つてゐるやうに坐つてゐたとグインタヴルレのベルナルドは記してゐる。

こゝに一つの挿話がある。或るイギリスの神學博士なるフランシスカンの一人がダミアノの壇に立つて説教した。それは學問の言葉であつて、貧しきフランシスカンに語らるべきものとは異つてゐたやうに見えた。「師よやめて下さい。私が説教しやう」突然エヂテイオが起ち上つた。神學者は壇を下りて此兄弟に聽くべく踞くのであつた。この出來事はクララを悦ばしめた。彼女は實に説教者のこの謙讓はフランシスの喜び給ふ所である事を感じ、死せる者が此世に復活したやうな歡喜を覺えたのであつたと「神の聖靈焰ゆるなかに」なる古い傳説は言ふ。

此ポルチウンクウラの兄弟達が餘りに屢々ダミアノの姉妹を訪れる事は、終に法王によつて嚴く戒められる事になつた。其時クララは尼院の爲に物質上の保護をなすべく定められた勞働の兄弟達の群に向つて言つた「兄弟達よ、直ぐに去つて下さい。必要の糧の保護者を必要としない者達は、肉の糧の保護者をどうして必要といたしませう」之には法王も屈服した。そして兄弟らは屢々ダミアノに來りその靈をかたむけて物語をなしつゞけた。

クララ天に歸る

時は近づいてきた。クララには昇天の喇叭が遙かに聞えるのであつた。屢々病に臥した彼女は一二五一年の秋には地上生活の終り遠からぬを感じた。然し未だ彼女には大いなる仕事が殘つて居た。彼女はまだ貧しさの特權について最後の承認を得て居なかつた。

その年の夏、法王インノケントはアッシジに來りクララをダミアノの病床に訪れた。そしてクララが習慣のまゝに法王の足に接吻しやうとした時、彼は足を一つの椅子の上へあげて病床の上より彼女が容

身に欲するところを爲し得るやうにしてやつた。クララはかくて法王の祝福と彼女の罪の全き赦しとを願つた。「わが女よ。私もあなたのやうに少しも神の赦しを必要としない身であつたなら」と法王は曰ひつゝ嘆息した。インノケントの去つた後クララは周圍の姉妹らに言つた。「娘らよ。主を讃美しませう今朝私は自分から主を迎へました。そして今私のやうに賤しい者も此世に主の代表者たる人に見えることが出來ました。」

姉妹達はこの後クララの床を離れる事は出來なかつた。姉に別れて三十年の間を、フィレンツェのモンティチェリー修道院の院主になつてゐた彼女の愛する妹アグネスも、今や召されんとしつゝある姉の病床の側に跪いて泣いて居るのであつた。絶食は二週間以上續いた。彼女の肉體は悲しく弱つた。然し彼女の顏せはいよ／＼靈の輝きに美しさを加へて行つた。クララは忍耐を勸める牧師に對つて言つた。「私が主イエスキリストの惠を、神の僕フランシスから學び知つてから、私にとつては如何樣な痛みも如何樣な苦行も重も過ぎた事はなく、如何樣な病も餘り苦し過ぎた事はありませぬ」次の日にポルチウンクウラの友達の許へ使が遣はされた。彼等は來た。兄弟レオは床の側に跪いて涙ながらに硬い藁の嚢の床に接吻をした。ヂネプロは携えて來た「神からの音づれ」を靜かに開いて讀み聞かせた。アンジェロは咽び泣いてゐる姉妹らを慰めた。その靜かなる涙のうちに、彼等はクララの美しき囁きをきいた。

「恐れずにおいで、おまへはお前の旅路に善い
導き手をもつてゐます！
恐れずにおいで、お前を創造なされた主はお
前を聖め、母が幼子にそゝぐいとしき愛を以
ておまへを護つて下さいます。
祝福されてあれ主よ！ 私を創造し給ひし主よ

靜かにクララは目を開いた。姉妹の一人が言つた。「あゝあなたは誰と話していらつしやいますか？」嚴かにクララは最後の言葉を答へた。

「祝福された私の靈に對つて話してゐます」人々は涙のうちより聖處女を見守つた。けれどもクララはもう彼等を見なかつた。彼女の目は明りとかなたの扉を見つめてゐた。その開かれたる扉より音もなく、この祝福せられたる聖クララの靈ひは彼等のとこしへの故郷へ昇つて行つた。此時扉の方より白衣の天の處女等榮光に輝きつゝ來り、彼女の靈ひをかこみつゝ歡ばしき天に去つたと傳説は言ふ。

地上に遺されし骸ろの榮光に輝ける掌の中に、クララは一つの大切な文書を握つて居た。其は此日から二日前彼女に送られた法王の文書で、之こそはクララ及其姉妹が聖フランシスの理想に從つて生活する事の權利に對する最後の承認であつたのである。

ウンブリアの野なるアッシジの町にマルゲリーテの如く咲けるフランシスと姉妹クララ。その生活の歡喜と眞實とは誠に人類の生命――ナザレのイエス・キリストの心の流れである。葡萄の枝、私達地上のもろ人！　永へに葡萄の樹に連なりてあらう。主は彼等を友と呼び給ふ。されぱもろ人よ。私達は兄弟又姉妹だ。人類の本當の姿は「友」であれと願はう。戀しきものは本當の友の心だ。心より心へ、あゝこの限りなき愛の歌を「小さき兄弟」の如くに歌つて歩かう。

小さき兄弟カプチンの物語つたところによれば、聖クララの日々の禮拜祈禱はかゝる言葉によつて始められた。

The lord put me a keeper among the vines.
The vine flourished and gave forth their fragrance.

豐熟な香りたゆたふ美しき葡萄園の番人――聖クララの話の結末にはこれより適した言葉はない。

讀書紹介（二）

――メエテルリンク作　ベアトリス尼――

二階堂眞壽

厨川さんの近代文學十講にメエテルリンクは宗教的でないやうなことを申て居られますけれども、メ氏は非常に宗教的な神秘思想家です。

　ベアトリス尼はスヰスの作家ゴッド・フリイド・ケラアの聖母と尼を改作したものですが、後者は家庭生活の祝福せらるべきものであることを述べたもので、メ氏のは人の罪は恕さるべきものである。なぜなれば肉體は罪を犯してもその心靈は天使のやうに無垢だからである、といふことを象徴的に戯曲化したものです。

　美しいベアトリス尼は尼寺の聖母像の前に跪いて哀しさや悦しさで咽び上げてゐます。「どうしませう聖母樣、私は生涯貴女のみ傍に仕へたく存じます決して決してあなたを離れ度く思ひません。けれどももうあの方がやつてくるのです。どうすればいゝのでせう、あの方は私と一緒にならなければ死ぬと申してゐます…………」

　その中にベアトリス尼を戀してゐる王子は、馬に跨つて未明に尼寺の扉を叩く。ベアトリスは「あゝ聖母樣、一寸でもいゝから身動きして下さい。貴女の影でも睫毛でもいゝ、一寸動いて下さい、さうすれば私は貴女のみ側に停ります…………」けれども聖母の像は塵ほども動かない。

　その聖母といふのはベアトリスの心靈を象徴して

ゐるもので、一寸も動かなかつたといふのは、彼女の心靈がまだ眠つて居り、從つて形式化した宗教の偶像を示したものです。然しその內部には眞の生命がないのではない。

尼は王子と一緒に馬に乘つて尼寺から駈落ちして仕舞ひます。

見棄てられた聖母はベアトリスの代りになり、彼女の殘して往つた衣と數珠をつけて、全くもとのベアトリスと同じ姿に窶ります。毎日ベアトリスの所へ布施を貰ひに來た里の人々は、今朝未明に尼がプリンスと去つたのを見たものですから一人も貰ひに來ません。けれども一人の小娘はそれを知りながら尼寺を覗きにくるのです。

聖母のベアトリスは淚ながらに其少女を抱き上げて悅びます。大人は信じなくとも子供は信じる。大人のやうに目で欺かれない。

尼の同僚たちは聖母像がなくなつたので吃驚し、疑ひがベアトリスに懸ります。ベアトリス尼の衣の下には聖母の衣があつたからです。尼院長からも同輩からもひどく罵られ迫害されます。けれどもベアトリスは沈默つて言ひ譯一つ致しません。同輩たちは其冒瀆のために、尼寺はソドムゴモラのやうに亡ぼされるだらうと惶てました。けれども尼寺には反つて祝福が參りました。同輩もしまひには彼女を尊敬するやうになりました。

それに反して王子と駈落ちしたベアトリスは、間もなく王子から見棄てられて了ひます。此世の快樂は夢よりも儚ないものでした。彼女は零落に零落を重ね、淪落に淪落し果てゝ、娼婦よりももつと惡いものになります。

人間が彼の同胞を敵に渡した時、彼女（心靈）は何所に居たか、恐らく彼女は、彼から遙か遠い所で咽び泣きをしてゐたのであらう」とメ氏が「貧者の寶」に述べて居るやうに、ベアトリスは、彼女のために死ぬとまで誓つた王子に見棄られ、自分も墮落し果てたときに、彼女の內部に秘んでゐる心靈卽聖

母は、尼寺で人の罪のために咽び泣いてゐたのです。凡ての人々の心に隠れて居る心靈は、みな聖母の如きものなのです。それは罪に汚されることはありません。

小野の小町といつたやうなベアトリスは、最後の死場を求めて曾て見棄てた尼寺へ畏る〳〵戻つてまゐります。彼女の代りになつた聖母は元のやうに像となつて立つてゐます。遺いて往つた數珠も法衣も其まゝに懸つてゐる。尼の同輩達は丁寧に看護します。けれども彼女たちはベアトリスが駈落ちした事を知らず、またベアトリスも聖母が彼女の代りになつてゐた事を知らないものですから、話はトンチンカンになる。同輩は心から彼女の高徳であることを讃へる、ベアトリスは自分ほど汚れたものは一人もない、罪人の頭です、私はこんなに眞白いシーツの上に寝かされるよりも、地べたの上にでも置かれた方がいゝ、親切な言葉よりも罵られた方が反て私には似つかはしい、氣が休まる。といふ。すると同輩はます〳〵彼女の謙遜をたゝへる。

人は肉體的道徳的の方面に於ては、本當に此尼のやうに罪人の頭として誰でも懺悔すべきでせう。然し、その人 内部にある神々しき心靈は聖母の如く讃へらるべきものなのです。

「大慰藉者たる死が通過した時、我々の中の何人が寛恕の有ゆる表象を示して、跪いて、默つて、別れゆく心靈に頭を下げないものがあるであらうか」とメ氏の言つてるやうに、罪人や敵にも其臨終には跪きたくなるのです。

"Sister Beatrice; and Ardiane & Barbe Bleue" は丸善にも古本屋あたりにもあります。價は一圓二十五錢で、英語は極く平易です。因に後篇の「アラデーヌと青髯」といふのは婦人解放問題を取扱つたものです。

T先生の講演「深き生活」のあらましを横濱のYU兩姉に

浅井治子

根なし草のやうに、彈力もなければ眞の生氣もない生活、正直に自己の眞相を見つめて苦しむよりも唯其場々々が圓滑に過ぎて行けば何の苦もなく滿足して終ふ自分、大地を踏みしめてしつかりと一歩一歩あゆむ代りに不用意なかけ足のやうな此頃。

× × × ×

雨の日の午後、このやうな自分の生活を心の中に繰り返して考へながら、私は青年會館にT先生の御講演を伺ひに行きました。其日は市内日本基督教會の婦人大會といふので、各教會は競ふて人々を誘引し、かねて割當てられた自教會の席に一人でも多くの聽衆の來るやうにと努めたのです。それで會場はなかく\すさまじい勢を呈して居りました。若し會衆の數に依つて會の振不振を定める事が出來るものであるとすれば、千に餘る婦人を集め得た此會合は確に成功であつたと云ふ事が出來ませう。とにかく先生の御話は「深き生活」といふのでした。

題句は斯のルカ傳十章の終りの部分、

マルタよマルタよ汝多くの事により思ひ慮ひて心勞せり。然ど無くて叶ふまじきものは一なり。マリアは既によき方を選びたり此は彼より奪ふべからざるものなり。

といふ個所でした。先生は例の口調で左の樣な事を語り出られたのです。

「近頃は社會問題婦人問題等がしきりに吾々の注意

を外に向け、今迄は臺所が世界であつた婦人達の生活を解放して、廣い天地に自由に伸びて行く事を促して居る。之は大變結構な事であると思ふ。然し外部に伸びて行く事にのみ吾々の注意が奪はれて、生活の根柢が同時に深められて行かなければ、其所に不安の來るのは當然である。吾々は自己の魂を深く掘り下げて行かなければならない」

　此所で先生は倉田百三氏の「歌はぬ人」から左の一節を引用されました。

「博いといつても文明批評家などの、所謂もの識りの博さは私の願つて居る眞の博さではありません眞の博さといふのは萬人の心の奥に通ずる普遍性に達する事だと思ひます。そのやうな普遍性は自分の心の奥の深い問題を飽く迄掘り込んで行くことによつてのみ達せられると思ひます。」

「一體眞の活動とは何をいふのであらうか。朝から晩迄唯々忙はしく動いて居る事をいふのであらうか唯やたらに廣い交際を有つて居ることが、眞の活動であらうか。吾々は多忙々々にかこつけて、眞の仕事を輕んじて居る傾がありはせぬかと思ふ。

　ルーテルは祈るといふ事は働くといふ事であると云つた。一日手足をばた〳〵させて居るよりも、一日の中に三十分眞劍に祈る方が、よりよい仕事を爲し得るかもしれない。眞の仕事とは、與へられた自己の魂を深く深く掘り下げて、萬人の心に觸れ得る魂を作り上げて行く事である。

　吾々の生活はどうも平面的であり、三面記事的であつて、少しも深い所がない。眞の生活は、物の眞髓に徹し、平面的な事實の背景をなして居る深い眞味に觸れることであらう。然し吾々の生活にはどうも斯樣な深みがない。野の百合は誰でも見る、然し基督のみが其中に神の榮光を見出された。彼は乞食淫賣婦、癩病人に接せられ、彼等の外見を通して其の眞髓に徹せられたのである。生れつきの盲目者の中に彼の見出されたものは何であつたか。即ち「之により神の榮の顯れん」事であつた。斯る絶望的

な人生の悲劇の中にさへ基督は尙望を失はれなかつたのである。

眞に深い魂の所有者は運命の奧を見通す事が出來る。堅い鐵の中に柔みを發見し、平凡な生活の裏に深い意味をさとる事が出來るのである。「人生の神秘に驚き得ざる者は愚人である」とゲーテは云つた。どうか吾々は人生の神秘に觸れる事の出來るものとなり度い。

それには先づ吾々が自身の魂を深めて行かなければならない。深い淺いといふ事は人の天性であつてすでに決定されて居る事かもしれない。然し或程度迄は、吾々の心懸けと努力とによつて魂が深められて行くのではあるまいか。例へば人生の苦痛に對する吾々の態度は慥に何かの跡を魂の中に殘して行くと思ふ。本當に眞劍に、苦痛を苦痛とし悲劇を悲劇として、少しもごまかさない態度を、吾々が苦しみに對して取つたならば、其經驗を通して慥に吾々の魂は深められるに相違ない。

死といふ事實には誰でも接する。然し釋迦のみが之によつて悟を開いた。基督は苦痛の盃を徹底的に飮み干された。或人がミレーを評して斯う云つて居る。

「彼は人生の地獄を忘れず、其所をつき拔けて天國に達した」と。苦痛をごまかすやうな人、眼前の悲劇を喜劇として取扱ふやうなものは到底深い魂の所有者となる事は出來ない。セネカは云ふて居る。

「常に富み盛え、心の痛みに刺さるゝ事なくして此一生を終るは人生の半を知らずして逝つた人である其人が不幸でないといふ事は不幸である」と。

苦痛は屢々愛に伴ふものである。而して愛によつて吾々の魂は高められ深められる事は明である。ダンテやテニスンを斯くあらしめたものは、愛であつた。「少しも愛さぬよりも、愛して失ひし方反てよし」とテニスンは云つて居る。親しき友を失ひし悲痛は一人の失ふべき友もなく、愛の經驗のなきに優るのである。此事をもつと云ひ換れば基督の仰せられた

他の爲に苦しむ事である。眞に人の爲に取る十字架此中に吾々の魂を深める力のない筈はない。

更に進んで、吾々は眞に人の罪を我が罪の如く感じて苦しむ所に迄到らなければならない。フレデリツク・テニスンは「余は余の時代の罪を、我が罪の如く認め得ん事を願ふ」と云つて居る。眞に人を愛する事、人の罪を裁かずして之を許す事は眞に深い心であらう。

然し最も深い生活に吾々を導くものは眞なる神の前に自分を深く見つめる事であると思ふ。吾々は屢々口癖のやうに自分は罪人だといふ。然しそれは極めて概念的である。口にそう云ふ時吾々の心がぴたりと合つて居ない事を經驗する。どうも吾々は自己の本體を見拔き得ないのである。誰の教へを聞かなくても、本を讀まなくても本當に赤裸々になつて自分の魂の顔を眞劍に見つめる人、之が實に深い生活に入り得る人だと思ふ。ロマ書七章や詩篇五十一篇に叫ばれて居る深さと比する時に、吾々の魂の狀態は實に不徹底である事を感ぜずには居られない。

吾々は朝から晩迄天手古舞をして少しも永久的な仕事をして居ない淺薄な生活から離れ、眞に深味のある生活に入らなければならない。

「マルタは心入亂れ」と記してある。彼女には心の準備が出來て居なかつた。外部的の仕事を始める前に自分の魂其ものを眞劍に基督の前に持ち出さなければならぬ。ヘルモン山頂でペテロは基督の他誰をも見なかつたと記してある。吾々の生活にも亦彼の他誰をも見ぬ瞬間、マリアのやうに主の御前に默す時が必要である。

生命の流れは古より斷え間なく流れて居る。エリア・エリシャの如き豫言者等を通じて。然しそれは基督に於て、殊に彼の十字架に依て最も豊かにあらはされた。吾々の生活は之により最も深くせられるのである。吾々は今自分達が有つて居るよりももつと深い魂の所有者となる事が出來る。慥に吾々の心には未だ見えぬシオンがある。もつと深くなり得る

可能性がある。而して其最大要件は魂の内に基督の十字架を見つめ、其前に默す事ではあるまいか。」

× × × × × ×

以上は不完全な筆記と記憶とから集めたT先生のお話の概略です。永い間斯様な事を話して下さる方はないか、書いて下さる方はないかと望んで居た事でした、私共にとつては殊に思ひ當る節々の多い暗示に富んだお話であると思ひます。本當に省みさせられる點が多いと御考へにはなりませんか。

御互に神の爲、人の爲、自分の魂をもつともつと深めて行かなければならない事を感じます。私共の仕事も生活も自分自身よりはもつと深くも高くもならない事に氣づきますと淋しい氣がします。けれど又ありがたいとも思ひます。それ程自分をごまかす事の出來ない境遇に置かれて居る事を考へまして。

私も「歌はぬ人」からの一節を加へて筆を擱きませう。之は先生が引用なさいましたのと同樣主人公恭一の言葉です。

「私には仕事といふ事を第一のものとは思はれません。尤も仕事といふ言葉にもよりますけれどもね、親鸞聖人が「念佛は正定の業なり」といはれたやうに、かくれての祈りが原動の力ですからね。その深い遠い所からでなくて、たゞ小說を書くとか、社會事業をするとかいふのは淺い事だと思ひます。」

丁度之を書き終へた時、Yさんからのお葉書が着きました。「昨夜の夢――或莊嚴な然し美しい聖堂で四五人の友人と私は祈つて居ました。其時の心持は常にない程神に近いものであつたのです」との御言葉。そして私も其四五人の一人であつた事を嬉しく思ひます。本當に眞劍に祈つてかゝりませう。私共の此仕事が廣さと共に深さをも增すものとなりますやう。YWCAの標榜する智、德、體の三育が眞に基督の精神によつて一貫され、彼の生命に充され、永久的な業をなし得ますやう。

"You can tell an artist by what he leaves out. He does not crowd everything into his picture helter-skelter; he chooses a central and dominant

feature and subordinate everything to it」度々きく言葉ですが、シルレルの此言葉を再び思ひ起します。私共の日常生活が本當に「なくてならぬもの」を第一とし、第二義第三義的のものに煩はされない生活であり度いと思ひます。斯くする事は外面の生活を圓滑ならしめない場合を起すかもしれません。けれど私共の周圍に渦を巻きつゝある此社會のいろ〳〵の出來事の中に不用意で飛び出す事により、私共は人格の破産者となる事を怖れます。靈魂の糧を失ふことを氣遣ひます。

「今日は數時間祈りつゞけた後でなければとてもやり切れない程澤山の仕事がある」とルーテルは申たそうです。然し私共にとつて多忙は丁度之と反對の傾向を取らせたがります。ほんとに危險な事ではございませんか。Yさんの夢が實現されて、御一緒に祈る時の與へられるのを待つて居ます。この爲にはどんな犧牲を拂つても高過ぎるといふこともなければ、後悔する事も決してない事を貧しい私の經驗が數へてくれます。之は全く第一事でなければならないでせう。

YさんもUさんもT先生の此お話に共鳴して下さると信じます。そして私と同じ様な感を之から得て下さる事も疑ひません。「けれど」といふ接續的な反感を試みたり、反感などは決して起しにはなれない。それ所かきつと、此話を感謝して下さるに相違ない。

こんな氣持に激まされ乍ら之を認め終りました。

〔九・十・八〕

◎本部の移轉

東京市神田區錦町一丁目十六番地

日本基督教女子青年會本部

牛込區田町三丁目十二番地より

日曜學校世界大會便り

□會場燒失を眼の當り見た一人の紳士は、彼は信者ではありませんが「之は神の業だ」と眞面目に申したそうです。姉崎博士は大會當局者に慰安の書を寄せられ「此度の火災が大會を導く火の柱となるやう」との意を洩らされたと聞きます。信者未信者を問はず、此出來事を通じて神の攝理を味つたものは少くないと思ひます。今にして考へれば之は決して不幸な出來事ではなかつたのです。

□大會は場所の外少しの變更もなくプログラム通りに期日から開催されました。毎日の會合に列し世界大會の名にふさはしい會である事を思ひましたが、最も深い感は國際的の感でした。少くとも此處に集つて居る人達の間には戰爭等といふ事は成立つまい。若し何か解決を要する問題が國際間にあるとしてもそれは戰爭といふ野蠻な仕方よりはもつと大人らしい人間らしい方法によつてなされるに相違ないと思はずには居られませんでした。日本とか米國とかいふ感よりも「神によりて一」といふ感に大會が支配されて居た事は當然の事とは云ひ乍ら嬉しく思ひました

□日本一國にとつて考へますと此大會は慥に基督敎のよい宣傳であつたでせう。之によつて反基督敎者の蒙を大いに啓く事が出來たに相違ありません。同時に迫害も少しは豫期しなければならないかも知れません。

□會期中内外名士の講演を通じて啓發せらるゝ所は少くありませんでした。然しコーラスやパジェントに依つて與へられた靈感も決して小なるものではありません。之は世人の考へる遊興とは、此所に於て全く別物である事を證して居ります。之等は實に大說敎であつたのです。コーラスやパジェントに加はられた方々は眞に美しい思出を與へられた事でせう。

□少しく數字的の報告を致しませう。大會出席者總數二千五百名、代表されし國卅三。日比谷公園に於ける生徒大會には内外人併て一萬五千餘の人々が集られしとの事です。

横濱女子靑年會

従來の事業が時を追ふて日を追ふて進歩發展して居る事を感謝してゐます。此秋は種々新計畫もありますが、未具體的に表はされて居りません。只今は切に此等の爲祈り且準備中であります。山手五五の外人寄宿舍も凡ての修繕終り準備成り九月十五日より開舍されミスペリー舍監代理として家庭なき人々のため、樂しき美しきホームを開かれて居ります。去る十月四日開舍茶話會を催し、會するもの八十名に近く、其喜びの聲、稱讃の言葉は戸外の雨の淋しさを破る程でした。

教育部の昨今

一聖書の組、畫の組一週四組、夜の組四組の他に毎朝十一時より三十分會館に學ばるゝ方々の爲禮拜をなす。

一一部、ピアノ、タイプライター、速記、西洋料理和服裁縫、習字科。右の中西洋料理はミセススネアーに、タイプライター及速記はミスレーシーの擔當にていづれも滿員なり。習字科は東京の佐藤梅園先生出張敎授せらる。

一二部、英語科、初等科、一ノ組、二ノ組、研究科高女卒業の組、高女在學生の組、子供英語の組の八組にて午前、午後、夜學等あり。

移 民 部

堂々たる紳士が一日尋ねて來られ、渡米に對する方法の一切を問はれたり、又夫婦伴れにて來館せられ渡米後の注意などきかれ、いづれも滿足して歸つて行く、之等の事から、小さいと思つて居ります渡米婦人講習會が段々人々の間に解されて行くのを喜で居ります。船出帆の前日若くは當日の三四時間を船中に聲をからして話すのも、殊に愉快の極みでございます。先日もペルシャ丸出帆の朝早くより正午の出帆時迄、六十餘名の婦人と個人的に或は小團體的に語り、それ〱紹介狀を渡して下船しました時光榮と喜悦との外には何物もない氣がいたしました。

神戸女子靑年會報告

本會にては職員一同御殿場に於る幹事修養會に列席し大に得る所あり歸神後一同勇氣に充されて働く事の出來るのを感謝して居ります。

一、教育部の働　英語、西洋料理、裁縫、音樂、聖書の組等何れも滿員にて良教師を與へられ夜學校にては數十名の有職婦人が樂しく勉强して居られます。

一、家庭婦人の爲の金曜クラブは去る八日六甲苦樂園に遠足親睦會を催し、温泉場にて樂しく親しき半日を送りました。

一、有職婦人クラブは去月末東京靑年會のミスレーシイ御來援に依り明かなるインスピレーシヨンを得て年長のビジネス婦人並に專門の職業を有する婦人方のクラブを作らん計畫中です。其第一步として十九日關西學院教授河上氏を聘して時事問題の御講話を承る事になつて居ります。

一、今迄ありしビジネスクラブは本月の例會にて役員の任選を行ひ名稱をも木犀クラブと改め其花の如く小さきクラブなれども香を散らして多くの人を樂しましむる如く、有職姉妹方に奉仕せんと努めて居ます。

此報告に特筆したきは移民部事業であります。此度兵庫縣廳より本會内に當分の間海外渡航者講習所を設られ度き申込を受け之を諾して會館内に其設備をなし、本月中旬より開始する事になりました。海外渡航者の身體檢査の前三日間彼等に外國の風俗習慣英語移民に關する法律等の講習を致します。本會のミスタピング並に大呑久子氏は縣より講習所講師囑託を命ぜられ專ら渡航女子の教育を擔任する事となりました。

只今の所會館は午前中は渡航者の爲、午後は家庭婦人の爲、夜は有職婦人の爲に用ひられ當市の婦人方に大なる奉仕を致して居ります。本會移民部幹事大塚正子姉は去る九月二十七日小谷氏と、事務幹事米澤尙美姉は神戸日本基督教會牧師馬場久氏と結婚せられました。

大阪女子青年會報告

四月以來幹事の後任なく心細き感ありましたが、幸九月より横濱青年會を助け居られし河野靜子姉を敎育部に、九州大分の佐藤いよ子姉を事務に御迎して、新しい元氣と希望を以て働きを初めました。

夏の間はミスハード御在館下され、夜學は勿論、裁縫英語の組等を續けられ、尙濱寺に子供さんの英語の組、水泳の組など設けられ、館外に迄活動なされました。星野夫人は同家離家を夏中青年會の爲開放して下さいましたので、煙の中に暑い夏の日を終日働かるゝ姉妹方は二三日宛交代に六甲山麓のあの凉しい美しい自然を庭に持つた同夫人宅に行かれ、ハード姉指導の許に聖書研究、讃美練習、靜かに祈りなどして小さき修養會を度々なさいました。

當市では中之島公園の一隅にあるテニスコートを私共青年會の者に自由に用ふる事を許され、多くの姉妹方は之を大に利用して居られました。

◦◦◦敎育部は新幹事、特志幹事、ピアノ專任敎師等を得各組共出席者增加し大に活氣づきました。新に高女卒業生及び在學生の爲に英語の組を設けました。料理の組は在席數二十八名久米先生の擔當です。夜學は殆有職婦人によつて成り出席者平均二十七八名。

秋季皇靈祭の日B・Gクラブ主催にて新幹事歡迎をかねて苦樂園に遠足をなし、秋のすみ渡つた景色に終日を樂しく過しました。

B・Gクラブ例會を八日開催し役員選擧プログラム委員、會員委員を設け、何か徹底した働をなさん希望を以て散會いたしました。出席者十二名。

◦◦◦宗敎部　心から青年會を愛して居られた中森いよ子姉は此夏美しい信仰を告白して信者となられましたが去月一人の母君や私共を去つて神樣の許に歸られました。未信仰に入られぬ母君慰安の爲、去る廿八日四十名程の集を開きました。牧師や、お友達の口を通じて母君をお慰め致しました。母君もいよ子姉と同じ信仰に入られん事を信じつゝ祈つて居ます。

萬國基督教女子青年會　祈禱週目錄　九年自十一月十四日同至十一月二十日

○十四日(日)　悔改懺悔の日　詩五十一　路十八ノ九—一四

何人も他人の爲に悔改むる事を得ず。是は各自各國自ら省みて爲すべき事也。祈禱週の第一日に當り我等謙りて神の聖前に自らの狀態を探り、過し一年の生活を省み、心より悔ひて新なる赦免と恩惠とを求むべきにあらずや。

萬國女子青年會の爲　瑞西の大會に二十八ケ國の代表者集合し世界の女子青年會の爲計る所あり、人種及國際的偏見は其影をだに止むる事なく基督に於て一との信念の下に愛信願勇氣一致の精神、此大會を通して充溢せり。之は感謝すべき事なり。次に我等は新に選ばれたる萬國本部の役員の爲、定められし豫算に對して豐なる供給を得ん爲祈らざるべからず。

日本の爲　(特に各市青年會の働の爲)

感謝。　各市部の働が市民に理解と同情とを得るに至りし事、東京橫濱大阪に於けるメジエントを通し青年會の精神が廣く了解せらるゝに至りし事、財界の動搖甚しかりし此年に於ても何等の故障なく、計畫を實現し得し事。橫濱に外人寄宿舍を與へられし事。

祈禱。　各市に寄宿舍が新設若くは增設せられ社會の要求に答へ得ん爲。事業の擴張と共に深みをも增し、眞に所在都市の婦女子に光と指導者とを與へ得る樣。職員間に一層の愛忍耐勇氣一致の增さん事を。

○十一月十五日(月)　聖靈を求むる日　詩一三九ノ一—一二—エペソ三ノ一四—一九

神に依らで我等の計る所はすべて空しく、何事も爲し能はざるを知る。然ど聖靈の力により一切の難關を切り拔けて尙力の缺乏を感ぜざるべし。我等が切に求むべきは聖靈なり。而して信仰をもて求むる者に神は此賜を拒み給ふ事なし。

亞弗利加の爲　此國の働に多くの援助と深き興味とが各國より與へらるゝに至りし事を謝し、尙多くの働き人を與へられ事業が靈的に發展し、より深きものたらん事を祈る。

日本の爲　(特に學生青年會の爲)

感謝。　新なる支部の加へられし事、各支部が事務及組織の方面に大なる進步をなせし事、今夏修養會に各自多くの代表者を送り得し事

修養會出席者が新なる決心と奉仕の念に燃やされし事。

祈禱。　來るべき年の間學生青年會内に祈禱の精神の盛ならん事、會員各自が責任を感じ校内に聖き氣風を漲らす動力となり得ん事、修養會にて決心せし人々が健全なる發達をなし信仰の花を咲せ果實を結ぶに至らん事、將來學生青年會々員中より神と人との爲め身を献げて奉仕する者の多く起り來らん事。

〇十一月十六日（火）　感謝の日　ペテロ前書一ノ一―九　詩篇一三八

我等の罪愆に對し神は七度を七十倍せし寛大と忍耐とを與へ常に新き奉仕の機を備へ給ふ。殊に死の苦しみに勝ちて我等の爲に救の道を開き給ひし基督の恵、信賴と服從とを以て聖旨を爲んと志す者を用ひて榮の器となし給ふ愛を思ひて感謝すべきなり。

亞米利加及加奈陀の爲　之等の國々の働が國内に進歩發展せしのみならず、遠く海外に及び、歐洲各地に於ては戰後の回復的建設的働となり東洋にありては婦人の開發を促す功小ならず殊に我國の受けつゝあゝ多大の援助を感謝し、彼等の上に祝福の豐ならん事を祈るべきなり。

日本の爲。各自適宜に題目を定めて祈られたし。

〇十一月十七日（水）　重荷を負へる者の爲に　詩一四五―　默七ノ十二―十七

精神界物質界の動搖今日の如く激しく人心が不安
と恐慌とに脅さるゝ時代とて今日の如きはなし。此
際殊に眼を賴りなく殘されし婦人と飢餓の中に生き
乍ら死の苦痛を經驗しつゝある小兒との上に注ぎ彼
等の爲に速に援助の道の開かれん事を祈るべきなり
特に北方支那に起りつゝある飢饉を思ひ見られよ。

支那及印度の爲　支那に於ては市青年會の增設、クラブの創設を見たり之感謝すべき事共なり、又本部の爲に地所を與へられたり。近來著しき發展をなしつゝある此國の働の爲同情と智慧との與へらるゝ樣、覺醒の兆見ゆる婦人の爲に青年會が新生活を開拓する任を全うせらるゝ樣、印度に青年會幹事たらんと志す婦人を出せし事を謝し、今後の働のために祝福を祈る。

日本の爲（特に本部の爲）

感謝。　瑞西の大會に我國より河井總幹事を送り得し事、種々なる國際的問題の起りつゝある困難多き時に際し同幹事が重き責任を全うせられし事、ミススコット初め内外人の新しき幹事を與へられし

事修養會が河井幹事の不在中なりしにも係らず滞りなく行はれ幾分の好果を納め得し事殊に數十名の決心者を與へられし事、修養會土地購入資金として既に四千圓餘を與へられし事、紐育在留の日本婦人より醵金せられたる四萬八百弗の寄附を受けし事。

祈禱。 修養會々場の爲適當なる敷地の與へられん事、働人に於ても物質に於ても必要の充されん爲、萬國學生同盟會副會長、萬國女子青年會東洋部々長に選擧せられたる河井總幹事がよく其大任を盡し得らるゝ樣、渡邊山本中西の三氏がよき修練を積み、有爲なる働人としての準備を充分に整へ得らるゝ樣彼等の精神肉體の健全ならん爲。我國各地青年會の委員及特志幹事の爲。

○十一月十八日(木) 國民の指導者及爲政者の爲

詩篇七二――テモテ前二ノ一―六

國民の上にありて政治を執る人々の爲、就中外務財務を司る人、勞働界の指導者の爲に祈るべし。國民の福祉は掛りて彼等の肩上にあれば、若し之等の人々にして正義に立ち神の國と其義とを求むる事を知らず上よりの智慧に導かるゝ事なかりせば、將來の社會は愈々渾沌を來すに至るべし。又文筆を以て國民を指導する人々の感化の大なるを思へば、彼等の思想言語が神の聖旨に應ふ樣祈らざるべからざるの感切なり。又婦人にして指導者の地位にある人々が次代の女子をして喜んで主を信じ、彼に從ひ得る樣、彼等の獻身を容易ならしむる爲に善き模範を示さん事をも加へ、終りに國際聯盟の責任者に神の守導のあらん事をも共に祈られたし。

墺地利　支那に第二人目の幹事派遣の件決せられしを謝し、ル
諸　島　ーマニアに於る働の祝福を受ん事を祈る。

日本の爲(青年會の使命明のにせられん爲)

改造の叫諸方面に聞ゆるに至り、眞の意味に於る婦人の天職理想漸次明にせられ能力も認められつゝあり、之等は謝すべき事なり。然ど眞の改造も覺醒も魂の改造より初められざるべからず。新しき物、眞なる物を求めて伸ばされたる婦人の手に我等の與ふべきは何ぞ。此際青年會の使命が一層鮮かにせられん事を祈る。

○十一月十九日(金) 教會の爲 ヨハネ傳十七ノ一―二十

若し教會が世を錯る事あらば、世は神を錯るに至るべし。我等は教會が眞に基督の代表者としての實

をあぐる様、自ら基督者と稱ふる者が身を以て神の榮を表し、世と妥協することなくして而も世を聖化する能力に充さるゝ様、殊に彼等の一致を祈るべし

歐洲諸國の爲　希臘、婦人間に青年會が働を始め得し事を謝し今後力强き働のなされん事を祈る。墺地利匈牙利は過去數年に渡る困難時代を神の守護の中にありしを謝し、今後指導者の中に靈的復興の起らん事を祈る。伊太利和蘭土芬蘭陀瑞典、各國共に缺乏が補はれ、愛と一致の精神盛んにならん事を祈る。

日本の爲　（基督者婦人の奮起の爲）
日本婦人の指導者は實に自ら確き信仰に生くる者の他にあらざる事を知り、基督者婦人が其特權と責任とを一層感じ、立て社會の缺陷を補ふ責に當らん事を、之が爲自己の信仰に就きても、婦人問題社會問題等に關しても神の智慧により明確なる定見を有するに至らん事、青年會が適當なる援助を此事につきて與へ得る樣。祈禱。

〇十一月二十日(土)　青年會の爲　詩二五ノ一―一五　羅十二〇

我等個人に與へられたる恵を感謝すると共に青年會の働の全般を通じ、過ぎし年の間受けし多くの祝福殊に戰時中慰安的奉仕を爲すを得しは眞に感謝すべきなり。同時に今後全世界の青年會が一切の供給を豐に備へられ充分なる奉仕の實を擧げ得ん事を祈らざるべからず。殊に若き女子が生涯の轉期に際して主に絕對の服從を爲すに至る爲、我等の働が援助を與へ得ん事を。

歐洲諸國の爲　佛蘭西、白耳義、獨逸、葡萄牙、丁抹、瑞西、チエコスロヴアキア、ポーランド、ルーマニア、露西亞、各自に必要なる助が與へられ、神の國の爲盡し得ん事、殊に萬國女子青年會本部の所在なる英國青年會に祝福の豐ならん事を共に祈られ度し。

新禱週負擔金――一人に付金拾錢

若し各國の會員が皆此責任を果すと約一萬ポンドの資金が倫敦の本部に備へられるわけであります。我國の青年會員諸姉はどうか殘らず、此世界的奉仕の爲に御負擔下さる事を御記憶願ます、之は私共に與へられた責任であると同時に又大な、特權でもあると存じます。市青年會所在地の會員は其所に御出金下さい。其他の方々は直接東京神田錦町一丁目十六番地の本部に御送りを願ます。郵劵で結構でございます。遲くも十一月末日迄に御送り下さいますやう御願致します。

河井先生へ

しげ子

急に靜寂を感ずる東都の昨日今日は亦一層感激を强めます。

國際的の大會に於ては、私共の全く知らぬ幾多の人の厚い〳〵涙がたしかにひそんで居つた事と思ひます。而してそんな苦い經驗から美しいものさへもすて、癒されぬ傷手を負はねばならなくなつた人も少くない事でせう。この様な事を想像する時に歡喜の中にも一種の嚴粛さを覺えさせられます。

コーラスの一員として又パヂエントの一人として、捧げた時と微力とは計り知られぬ程の報酬をもたらせました。火の難水の難をも犯して毎夜會場までかゝさずに通ふ時でさへも、心中には一片の不滿もなく只清い讃美の歌に充たされて居るのでした。幾度か練習のために使用した會場が瞬く間に跡形もなく灰塵と消え去つて行くのを目前に眺めねばならなかつた時、非常な疑惑と悲しみに一時は身も震へる程の不安を感じましたが、それさへも次の瞬間には限りない神の愛の攝理とさとり得る事が出來たのです。とかく日常の小さな生活を神から離して只事件の生じた場合に於てのみ神に近よろうとする人間の愚かさを自分の中に見出して、泣きたい程かなしゆうございました。アッと言ふ間に燒きつくした魔の様な焔はその光景を見て居た人々の心の不健全な家をもうばひ去つた事と思ひます。其の夕私共は寮舍に歸りつくまで沈默の内に様々の感に打たれて居りました。

夕食後食卓をかこむで語り合ふて居りました時に皆が何か出來るならば手傳ひがしたいといひ出しました。いろ〳〵考へた末に大分失はれた樂譜の事に心付きましたので早速有志者が集つて千五百枚程の樂譜を作りました。毎日の學課を終へて僅かの時間を利用するより外に時はないのですから二日二晩を費されねばなりませんでした。

「この様なお手傳ひが出來るなら私も今日からよろしく青年會員とならねばならないかしら?」

「會員になつたつてならなくたつてそんな事は問題外よこんな時には皆で一緒に手傳ふではありませんか」

「學校の徽章が Sacrifice and service で [illegible]だし Sunday school がSSだから一寸終りの方へ書き入れて置きませうよ」

「二つを兼ねたところは面白い思ひつきだ事」

この様な會話をしながら樂しく夜の二時頃までも時を忘れて働きました。かなりの疲勞を覺えましたがみな心よい疲れでした。

久しぶりで私共は仕事と名のつく事を一緒になつてしたのでございます。私共は長い間動機の聖練に戰ふて居つたのです。今もなほ生長せんとする若き心に世の多くの矛盾を感じて、幾度か立たんとして倒れます。然し次第に熟しつゝある力はどこまでも社會の矛盾を破つてその救ひを全ふするために活動せねば止まない事と信じます。エスの愛によつて人の心に目覺めた活氣の働く時、眞實な仕事の尊さを味ふことが出來、そのために命をも捧げる事をいとはなくなる事を思ひます。

美しい感激に滿たされて居る私共のためにお祈り下さい。秋もすでに闌になりました。まさに冬を迎へんとして冷風は肌をさし人の心身は自づと緊張を感じます。この秋！私共の中から何かゞ生れ出て來なければならない氣がします。

——一九二〇、十、廿二——

支部便り

□東洋英和女學校青年會より。　大分おそなはりましたが夏期修養會の建物の爲に私共も是非働きたいと存じて居ります。會員一同の賛成を得ました故、例年のバザーの一つの賣上を寄附するか又は何か特別に催すかは未定で御座いますが、兎に角お仲間入りだけは致す積で居りますから左樣御承知下さいまし。

□大阪プール女學校女子青年會登山部より。　十月二日の晴天に幸せられて會員有志五十名當地に登山いたしました。山上で皆が圓座して讃美歌を唱し、校長先生のお祈りに神のお惠みを深く感謝した事を、紀念したい爲に一筆御報申上ます。年末本部皆樣の上に御祝福豐ならん事をお祈いたします生駒山にて。

□下の關梅光女學院より。　當支部より本部への納金は當支部收入の一割を當つる事に相定め候間此段御通知　及び候。

□名古屋金城女學校青年會より。
本會の總收入は些少ながらその一割を年々御送り致す事に致しました。修養會の土地の爲特別の催をする事はお恥しい話ですが出來ません。けれど何か收入を得まして是非御助け致そうと存じます。雜誌は十月から十册宛御送り下さいませ。十月號　未載きませんが可成月おくれにならない樣に御願致します。今振替て六圓五十錢お送り致しますから左樣御承知下さいませ。

本部編輯室より

□支部の方々からのお便りは本部の者が何より喜んで拜見するもの丶一つです。日本のYWCAを本當にしつかりしたものとする爲に皆樣の御祈と御助とを御願ひいたします。

□祈禱週をどうか有意義な週間として送つて戴き度切に願ひます。世界中の青年女子が心を併せて一つ目的の爲に祈るといふ事は私共に與へられた特權の最大なものであります。考へるさへ愉快な事ではございませんか。祈禱週負擔金の事も御記憶を願ひます。

□別項記載の通り本部は神田に移りました。錦町停留場から近い所でございますから、此方面に御出かけの折は御立寄下さいませ。

H　A

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、一貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年十月廿八日印刷納本
大正九年十一月一日發行

發行所　神田區錦町一丁目十六番地
日本基督教女子青年會
電話番町四五六三番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區錦町一丁目十六番地　河井道子
印刷人　芝區愛宕町和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右同所　三成舍

world, grant that all who profess and call themselves Christians in these days of our testing may possess the spirit of the men who walked with Christ in Galilee, and may be consumed with their desire to win the world for their Master. And grant, O Lord, that all such may be brought into a living unity of faith and doctrine so that Thy Church may be established in its perfectness in all the earth, being one flock guided by one Shepherd. Amen."

Europe. The Lord is high above all nations. Psalm 113 : 4.

Greece. *Prayer* that ways may be found of reaching the Greek girl and teaching her the great gift of Christ.

Austria, Hungary. Praise for God's help and deliverance in times of distress and darkness, for faithfulness of women and girls to Christ. *Prayer* for spiritual renewal for leaders and workers.

Italy, Holland, Finland, Sweden. *Prayer* for the Spirit of Love and of truer comprehension of the wider work opening out before us.

Saturday, November 20. Fourth Day of Intercession.

For the Associations. Psalm 25 : 1—15, Romans 12.

With hearty thanks to God for the work of the Association in days past, and for the service of healing we were called to do in days of war, we recognize that a great trust has been given us for the days of peace. We pray for all who direct our affairs ; we ask that the material means shall be forthcoming, whereby we may enter fully into our Kingdom of service. We pray especially for the youth that shall enter our portals, that at the years of decision they may be aided by the work and tone of the Associations to surrender themselves completely to the Master.

Europe. (continued). He fashioneth their hearts alike. Psalm 33 : 15.

France, Belgium. *Praise* for increased desire amongst the girls for spiritual things. *Prayer* for more strong aud consecrated lives in the Association.

Germany. *Praise* that a deeper desire for spiritual things is manifest in Christian circles. Prayer that sympathy and understand among Christians of every land may help to clear away the mists which lies, hate and suspicion have caused among the nations of the world.

Great Britain and Ireland. *Prayer* that we may have faith and courage to go forward with renewed purpose and zeal to carry the Gospel of Christ in all its fulness to a wider circle of women and girls both at home and abroad.

Portugal, Denmark, Switzerland. That the spirit of the age may not affect the workers, but that they may be filled with a humble spirit of sacrificial service.

Czecho-Slovakia, Poland, Roumania. *Prayer* for the stricken sufferers of war-torn Europe ; for the secretaries and workers.

Russia. *Prayer* for the girls and women of Russia, that comfort and succour may reach them ; that they may have a part in the Association, sharing in its purpose of mutual service for the girls of the world ; for the secretaries who are working for Russia.

in Osaka raised by Japanese people in New York City; for Miss Kawai's visit to Europe and America and her opportunity to represent the women of Japan to women in other countries; for the enlarged opportunities opened to the Association through changing social and industrial conditions following the war. Prayer for more secretaries, both Japanese and foreign; for adequate equipment,—new national offices, a building for factory work in the suburbs of Tokyo, for local buildings in Yokohama, Osaka and Kobe; for an industrial specialist to guide in opening industrial work; for the volunteer leadership of the Association—the Boards and committee women.

India. Praise for the response from young women of the country to the call to offer themselves for training as Association secretaries; *Prayer* for the movement towards a united Indian Christian Church, and for grace for the Association to give free play to indigenous leadership.

Thursday, November 18. Second Day of Intercession.

For Leaders and all in authority. Psalm 62, 1 Tim. 2:1—6.

We pray for all Rulers; for Ministers, especially of Foreign Affairs, Finance and Labor, remembering that the future of the world is dark if these men be not granted the wisdom which cometh down from above, and do not seek first the Kingdom of God.

Recognizing that the vast majority of those made in God's image work with their hands we pray for all spokesmen of Labor. Moreover, realizing how great is the influence of those who guide the thoughts of the people by their pens, we beseech Divine aid for all editors, journalists and men of letters, that the things that are written may declare the things that are excellent according to the Will of God.

Again we pray for all women who now hold places in public life, and for all who train the younger generation, that their influence may make it easier and not more difficult for those who come after us to believe in and follow Jesus Christ.

Finally, realizing the nobility of the aspiration that is embodied in the League of Nations, we entreat God's guidance for those to whom its direction is presently confided.

Australasia Fellow-citizens, and the household of God. Eph. 2.19.

Praise for the decision to send a second secretary to China as soon as possible; *Prayer* for our representative in Association work in Roumania.

Friday, November 19. Third Day of Intercession.

For the Church. Psalm 122; John 17:1—20.

If the Church shall fail the world, it seems as if the world must fail God. Wherefore let us pray for the Church that she may be indeed Christ's reflection and representative among men. Especially at this time let us pray for her unity.

"Oh Thou who didst ordain Thy Son to dwell among men and to call certain unto Him to follow Him and to be His Church in the

and makes them a rock whereon He can build His Church. Let us remember the final prospect for the individual, expressed in the almost unbelievable words "we shall be like Him," and for the world, "and His glory shall cover the earth as the waters cover the seas."

America. For none of us liveth unto himself. Rom. 14 : 7.

Canada. *Praise* for the growth in the number of Associations and for the development of departments. *Prayer* for the spirit of earnestness and a growing sense of responsibility among the girls and students; for a large vision of our opportunity in industry.

United States of America. *Praise* for the vision which included the need of the world in the outreach of their program. *Prayer* for wisdom to put into effect in human society the social ideals of the Churches; for the students, that they may be steadfast in their purpose to serve as true followers of Jesus Christ.

South America. *Praise* for the beginning of advance work. *Prayer* for its development along the best lines, and for its leaders.

Wednesday, November 17. First Day of Intercession.

For the broken in spirit and the restless in heart. Psalm 145, Rev. 7 : 12–17.

It is easy to forget that the world has never been so sad as today. Never did the bat-like wings of despair fling their shadow so far. An old legend declares that the rivers of hell are fed by the tears of death. If that be so, they are overflowing their banks today. And we need not be surprised that out of this sorrow has sprung the menace of a world restlessness or that the heart of man is tumultuous.

Let us hold before the Mercy-seat the bereaved, and especially bereaved women; children in whose eyes there will always lurk the shadow of fear and whose bodies are wasted by famine; the homeless and those who know not how to earn their bread; being very certain that the Lord is nigh unto all them that call upon Him, and that He upholdeth all that fall and raiseth up all those that be bowed down. Further, let us remember all who are bitter in heart and who seek they scarcely know what of change and destruction, to the end that all discontent may be a divine discontent and a promise of the coming of the Kingdom.

Asia. God is my king....working salvation in the midst of the earth. Psalm 74 : 12.

China. *Praise* for a successful finance-fellowship campaign; for new clubs among girls and students; for land for National building. *Prayer* for those who are in student work that wisdom and sympathy may be given them at this time of great activity among students; that the Association may find its place in the new life of women in China.

Japan. *Praise* for Miss Jane Scott, our new foreign national secretary who is to work with Miss Kawai; for money for a hostel

WORLD FELLOWSHIP WEEK OF PRAYER
NOVEMBER 14—20, 1920

Sunday, November 14. The Day of Repentance and Confession.

Psalm 51, Luke 18 : 9–14.

Every individual and every nation should acknowledge their common need for the pardon and mercy of God. No man can confess for another man, no nation for another nation. Let us remember God's fortitude and our readiness to halt; His courage and our willingness to compromise; His truth and our insincerities; His unfailing passion to deliver and our unconcern for the sores of the world.

World's Y.W.C.A.

We, being many, are one body in Christ. Rom. 12 : 5.

Praise. For the World's Committee meetings at Champery, where representatives of 28 countries met to discuss together urgent questions connected with the work of the Associations throughout the world. For the joy of reunion after years of separation, for friendships renewed and fellowship in prayer and work. For the special joy of realising and proving a unity in Jesus Christ above all national differences; for the spirit of love, confidence and courage that characterised the gathering.

Monday, November 15. The Day of Prayer for the Spirit.

Psalm 139 : 1–12; Eph. 3 : 14–19.

Without God we cannot do anything to please Him. Wherefore with purpose and eagerness let us beseech Him newly and with power to give Himself. May He come as the Spirit of Truth, that we may discern the things that are excellent and be concerned only with reality; the Spirit of Fire that we may be on fire for the Kingdom. Let us be reminded that already that Spirit dwells in us and that we are called to work out our own salvation because it is God that worketh in us.

Africa. Till we all come in the unity of the faith. Eph. 4 : 13.

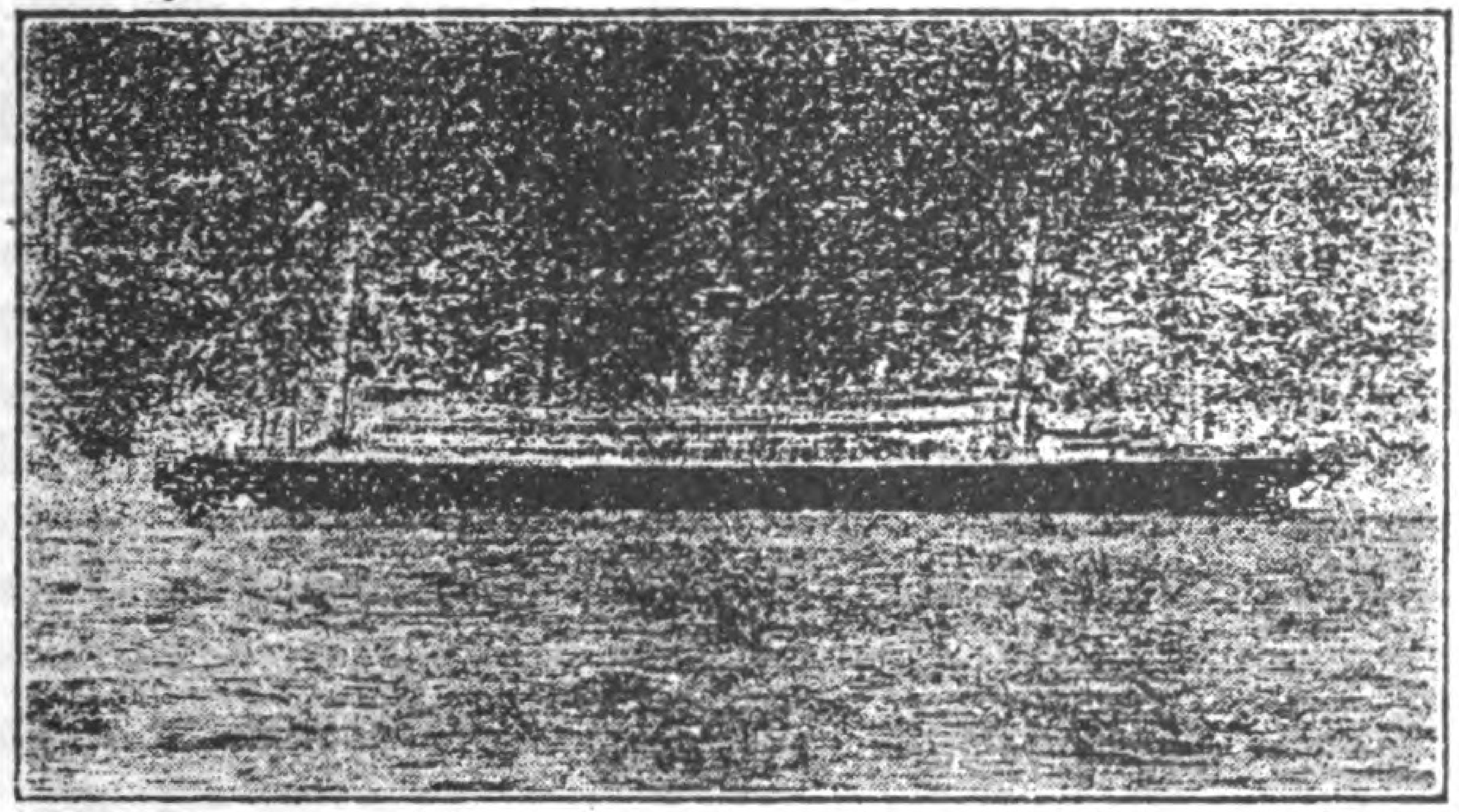
Praise for the ever-growing interest in the work of the Association among people of all nationalities. *Prayer* that the life of the Association may be spiritually deepened; that interest may be aroused in questions of wider outlook:—the world-wide work of the Association, citizenship, Bible study.

Tuesday, November 16. The Day of Thanksgiving.

Psalm 138, 1 Peter 1 : 1–9.

Let us call to mind the astonishment of His mercy, the unshadowed patience with which He gives us new chances to serve Him, even when we have failed Him unto seventy times seven; the transmuting power of His love whereby He takes ordinary folk

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス、ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチヤンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウエイ、一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルル、、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾七卷第十一號(毎月一日一回發行)
大正九年十月廿六日印刷納本 大正九年十一月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

